

事業報告書

1. 法人本部拠点

1. 法人内事業所と事業内容

○第二種社会福祉事業

事業所名	事業内容
介護老人保健施設ルミナス大府	入所により在宅復帰を目指し、リハビリを中心とした看護、介護サービスを提供している。 また、在宅の高齢者が通いによる身体機能の維持、向上に向けたサービスを提供している。
グループホーム・ルミナス大府	認知症を発症した高齢者の方々が、少人数で共同生活を営むための介護サービスを提供している。
認知症介護研究・研修大府センター	認知症介護に関する実践的な研究と認知症介護に関する指導者の養成を行っている。
障害者福祉施設サンサン大府	障がいのある方の社会生活の自立に向けた就労支援サービスを提供している。

○公益事業

事業所名	事業内容
訪問看護ステーションルミナス大府	自宅に看護師が出向き、医師の指示による医療処置等の看護ケアを行っている。

2. 役員会等の開催

○理事会

日時	審議事項
R03.04.08	・理事長の選定（案）について （開催を省略・書面決議）
R03.05.31	・令和2年度事業報告及び決算報告について ・理事及び監事の選任候補者（案）の提案について ・評議員の選任候補者（案）の提案について ・評議員選任・解任委員会の開催及び選任・解任委員の選任（案）について ・定時評議員会の開催日時及び場所、議題等について （開催を省略・書面決議）
R03.06.21	・理事長の選定（案）について ・常務理事の選定（案）について ・苦情解決第三者委員の選任（案）について （開催を省略・書面決議）
R03.12.01	・令和3年度第1次補正予算（案）について ・予防接種等補助金支給規程の制定（案）について ・就業規則等の一部改正（案）について ・評議員会の開催日時及び場所、議題等について
R04.03.14	・令和3年度第2次補正予算（案）について ・訪問看護ステーションルミナス大府の事業廃止（案）及び定款の一部改正（案）について

R04. 03. 14	・重要な役割を担う職員の選任（案）について ・理事（常務理事）の選任候補者（案）の提案について ・役員等報酬及び費用弁償規程の一部改正（案）について ・令和４年度事業計画（案）及び予算（案）について ・就業規則の一部改正（案）について ・評議員会の開催日時及び場所、議題等について（オンライン開催）
-------------	--

○評議員会

日 時	審 議 事 項
R03. 06. 21	・令和２年度事業報告及び決算報告について ・理事及び監事の選任候補者（案）について（開催を省略・書面決議）
R03. 12. 10	・令和３年度第１次補正予算（案）について
R04. 03. 23	・令和３年度第２次補正予算（案）について ・訪問看護ステーションルミナス大府の事業廃止（案）及び定款の一部改正（案）について ・理事の選任候補者（案）について ・役員等報酬及び費用弁償規程の一部改正（案）について ・令和４年度事業計画（案）及び予算（案）について（開催を省略・書面決議）

３．監査の実施

監査名	日 時	実 施 内 容
年次監査	R03. 05. 20 R03. 05. 21	・令和２年度事業報告、決算報告の検査
定例監査	R03. 08. 11 R03. 11. 16 R04. 02. 17	・事業進捗状況検査、月次出納検査

４．本部主催行事

行事名	日 時	人数等	実 施 内 容
辞令交付式	R03. 04. 01	９名	新規採用職員並びに昇格職員に辞令交付を行った。
永年勤続職員表彰式	R03. 04. 01	10名	勤続期間が20年（7名）、10年（3名）を経過した職員に表彰状及び記念品を授与した。
法人設立 50周年記念事業	R03. 07	—	感染症予防のため式典は開催せず、オリジナルクリアファイルに挨拶状を付けて配布した。 「桜の丘プロジェクト」と称して、法人敷地内に桜、桃、アンズ等の植樹を行った。

2. ルミナス大府拠点

1. 総括

- (1) 介護老人保健施設ルミナス大府は、目標入所率 95%に対して実績は 94.5%でした。4月と8月～11月に老人ホームへの入所や急な入院等の影響で 92%台と落ち込みましたが、12月以降は平均 96%で推移しました。
- (2) 介護老人保健施設の役割である在宅支援機能を一定の基準で満たしたため、年間を通して在宅復帰・在宅療養支援機能加算を算定することができました。
- (3) 通所リハビリテーションは目標 1日平均 32人に対して 30.8人でした。内訳は1日コース 25.7人、短時間コース 5.1人でした。8月、1月、2月に職員及びご利用者数名が新型コロナウイルス感染症に感染し臨時休業したため、利用者数が減少しました。一部接触した利用者、職員に PCR 検査を実施し、全員陰性が確認されました。
- (4) 訪問看護は月平均の目標件数 300 件に対して 355 件と大幅に増加しました。感染対策を徹底しながらサービスを提供しました。
- (5) グループホームの利用率は 99.9%でした。7月に1名のご利用者が退所しましたが、4日後に新規入所者を受け入れることができました。年間を通してほぼ満床で運営することができました。
- (6) 7月から大府市内の訪問歯科による訪問歯科診療が週3回行われています。嚥下機能の低下が見られる方に対して嚥下機能評価が実施され、肺炎防止に向けて取り組みました。
- (7) 薬剤師と連携してポリファーマシーの改善に向けて取り組んでいます。昨年度は1人あたりの平均処方薬剤数は4剤でしたが今年度は3.6剤になりました。
- (8) 今年度から科学的介護情報システム「LIFE」に取り組みました。ICT 機器を充実し、厚生労働省へデータの提供を行いました。
- (9) 各種委員会を毎月開催し質の高いサービス提供に努めました。
新型コロナウイルス感染症に対しては感染管理委員会を毎月に加え適宜開催し感染対策を徹底するとともに施設独自の感染マニュアルを基準として取り組み、徹底した感染対策により全入所者が感染することなく1年間を終えることができました。厚生労働省の感染対策による補助金を活用し感染対策をさらに徹底しました。
- (10) 資格支援制度を創設し、無資格の職員に対する受講支援を行いました。介護職員2名が介護職員初任者研修、介護職員7名が喀痰吸引研修を受講しました。

- (11) ホームページと機関紙を活用した PR 活動を促進しました。広報委員会がホームページを管理し更新頻度を上げ、内容を充実したことで令和 2 年度と比較して閲覧件数が大幅に伸びました。
- (12) 地域貢献事業は「認知症カフェくちなし」を感染状況に応じてオンラインと集合開催を併用して実施しました。

2. 新型コロナウイルス感染症対策

(1) 感染管理委員会

施設の感染対策活動の中核的な役割として感染管理委員会を設置しました。日常的な感染対策から発生時の対応及び施設の感染対策に対する問題点を把握し改善点を講じるなど施設の感染対策を早期に検討し決定しました。

(2) 感染症対策マニュアルの改訂

感染症を総合的に分析し利用者及び職員の感染対策、発生時の対応、連絡体制などを部署毎に策定し対策全般の対処方針をまとめました。感染症対策マニュアルはホームページに公開し、事態の変化に伴い適宜改訂を行いました。

(3) 保健所及び県の派遣応援チームとの連携構築

保健所と定期的に連絡調整と近隣の感染状況の把握及び感染対策に対する助言を受けながら、早期の感染対策を講じることで予防徹底に努めました。

(4) 近隣施設、医療機関との情報共有

近隣施設と常に情報交換を行い感染予防、発生時の対応などを共有しました。多様な課題と一緒にとり組めるように近隣施設間のネットワークを構築し検討を行ってきました。また情報を早期にスタッフ間で共有し早期の感染対策に努めました。

(5) スタッフ間の連絡体制構築

中部電力が運営している「ビジエネ連絡網」を活用し迅速にスタッフ連絡を実施しました。早期の情報共有、早期に感染対策に努めることができました。

(6) COCOA アプリの活用

厚生労働省が運営する接触アプリ「COCO A」の登録を推進しました。職員 2 名が「COCO A」から陽性者との接触通知を受けたため、保健所の指示により自宅待機、行政検査を行いました。

(7) 感染症対策物品の整備、備蓄

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援金として感染症対策に対する物品整備のための補助金が交付されました。手袋、マスク、ガウン、消毒液の基本的な感染対策

物品を長期的に備蓄しました。

(8) オンライン面会

感染状況に応じて対面面会とオンライン面会を併用して実施しました。対面面会は10月から1月の4カ月間実施しました。感染対策上、面会人数は2人までとしました。面会時間など課題が残されているため、今後改善に向けて取り組んでいきます。

(9) 職員のPCR検査

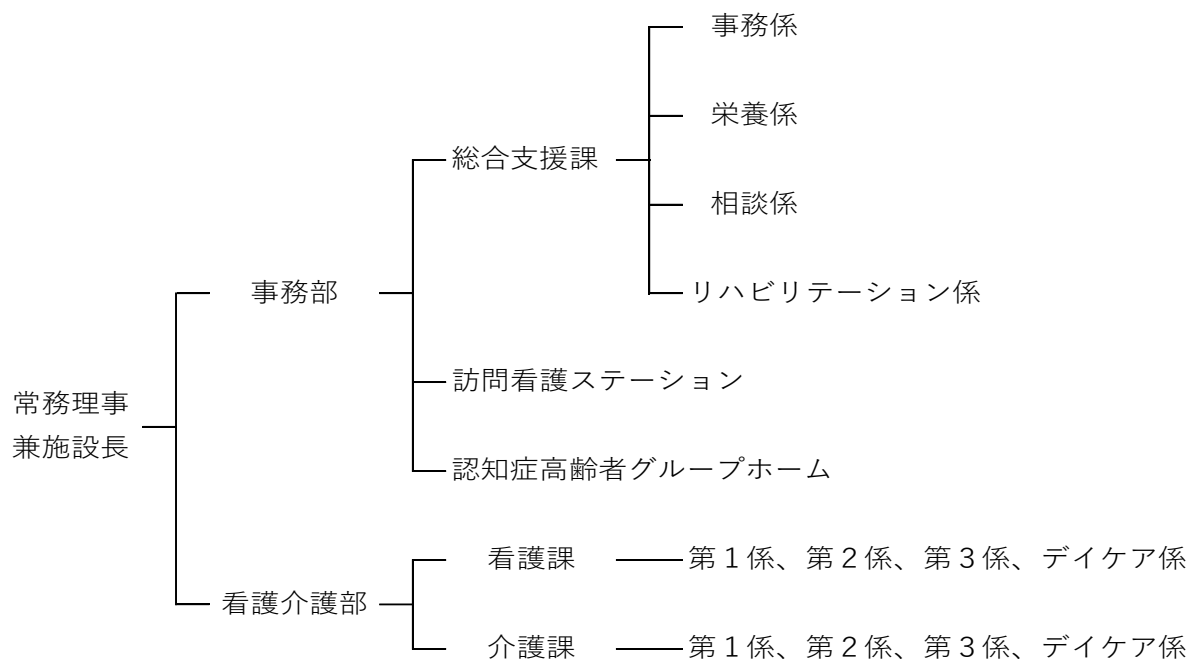
職員を対象としたスクリーニング検査を計13回実施し、職員3名が陽性診断を受けました。保健所の指示により職員及び入所者に行政検査を実施しました。感染が広がることはありませんでした。今後も積極的に受検をしていきます。

(10) ワクチン接種

大府市の協力により5月に2回目、1月に3回目の入所者へのワクチン接種を早期に実施することができました。

3. 組織（介護老人保健施設及び併設施設）

令和4年3月31日現在



4. 職員実数

令和4年3月31日現在

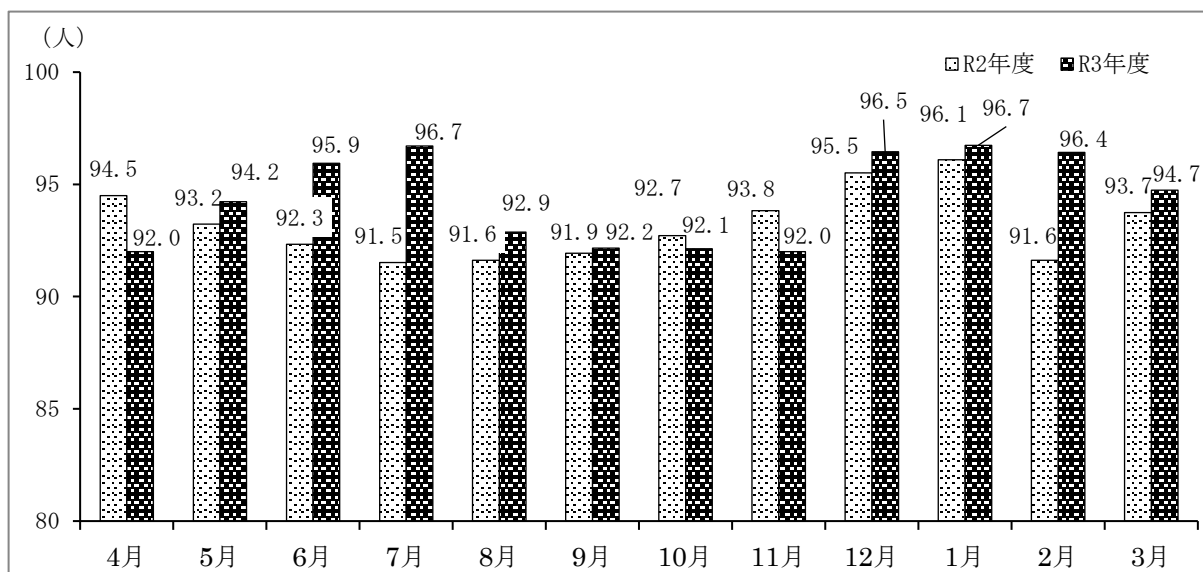
	介護老人保健施設 (通所リハビリテーション・ 訪問リハビリテーションを含む)		訪問看護 ステーション		認知症高齢者 グループホーム	
	常勤換算数	開設基準	常勤換算数	開設基準	常勤換算数	開設基準
施設長（管理者）	1	1	1	1	1	1
薬剤師	0.35	0.33				
看護職員	12.25	11	4.0	2.5	0.8	3
介護職員	49.75	27			4.6	
支援相談員	4.00	1				
作業・理学療法士	9.00	3				
介護支援専門員	1.00	1			0.1	実数
管理栄養士	1.90	1				
事務職員	1.63	実数	0.6	実数		
施設管理員	0.45	実数				
計	81.33	45.33	5.6	3.5	6.5	4

5. 介護老人保健施設ルミナス大府

（1）各サービス利用状況

①長期入所 利用状況

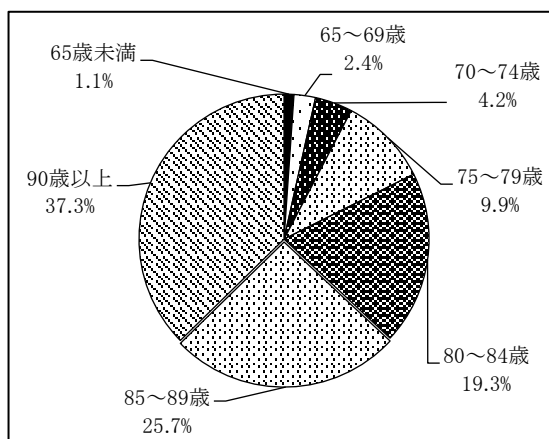
ア. 月別利用者数 年間平均 94.37 人／月 （2年度 93.22 人／月）



年間平均利用者数は 94.37 人／月でした。昨年度と比較して 1.15 人／月上昇しました。8月～11月は入院者と特養・有料老人ホームへの入所が重なり、92人台と落ち込みましたが、12月～2月は96人以上で推移しました。

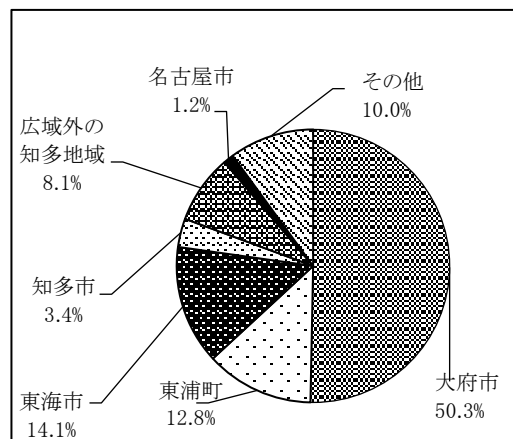
イ. 年齢別利用割合

平均 85 歳（2 年度 85.6 歳）



全体の分布は 2 年度と比較して大きな変化は見られず 85 歳以上の割合が 6 割以上となっていますが、その中でも 90 歳以上の割合が微増しています。

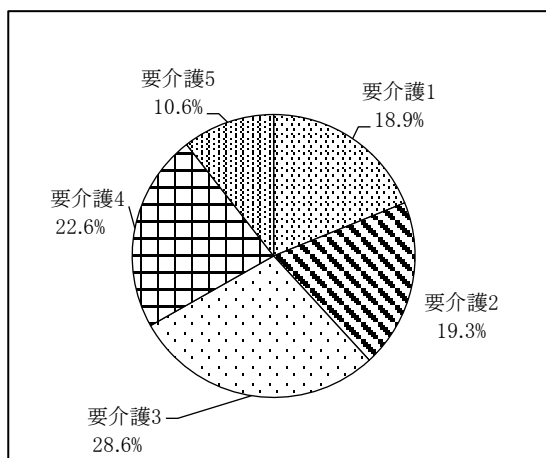
ウ. 住所地別利用割合



大府市からの入所者が半数を占めています。次に東浦町 12.8%、東海市 14.1%と続いています。全体の分布は 2 年度と比較して変化は見られませんでした。

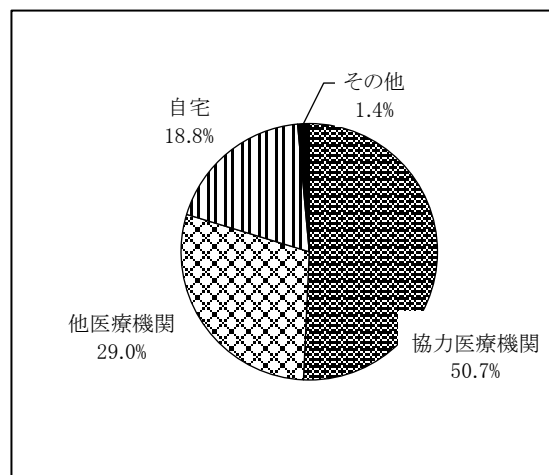
エ. 介護度別利用割合

平均介護度 2.9 (2 年度 2.9)



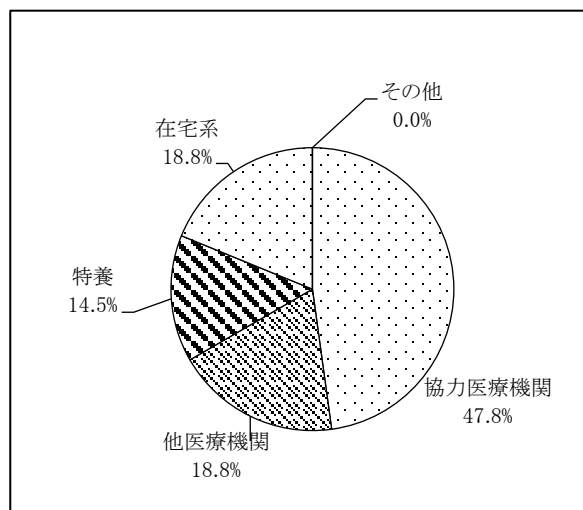
平均介護度は 2.9 でした。2 年度と比較して変化は見られませんでした。要介護 4 以上の方が約 3 割を占めています。

オ. 入所経路別利用割合



医療機関からの入所が約 8 割を占めています。協力医療機関のうち長寿医療研究センターからの入所が大半を占めています。

カ. 退所経路別利用割合

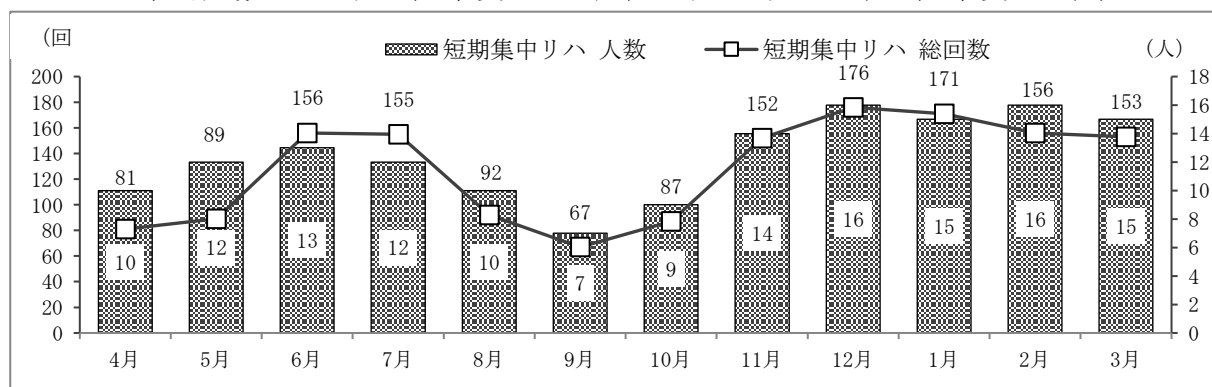


医療機関への退所が最も多く約 6 割以上を占めています。特別養護老人ホーム 14.1%、有料老人ホームを含めた在宅系への退所は 18.8%になっており在宅系は前年度から 3.5%増加、特養も 4.8%増加しています。要因としては With コロナにシフトして入所受け入れが在宅も施設も積極的になってきたことが考えられます。

キ. 長期入所 短期集中リハビリテーション加算

延べ実施人数と実施回数 149 人、1454 回

月平均人数 12.4 人 (2 年度 10.7 人) 実施率 98.7% (2 年度 100%)

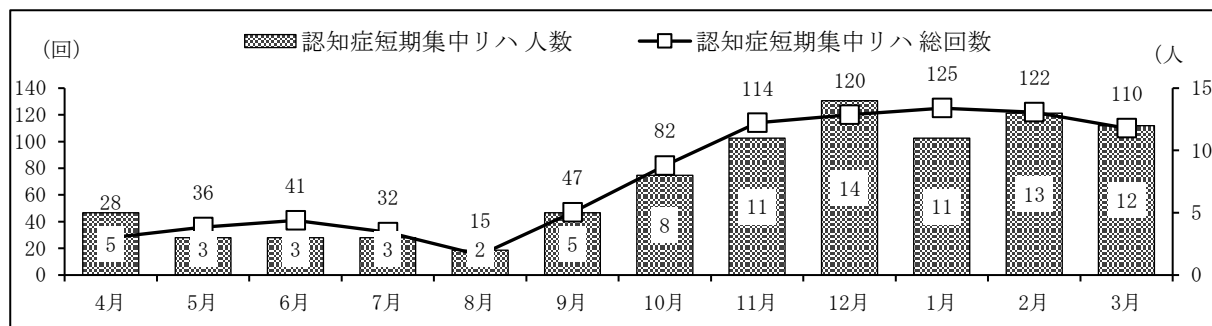


短期集中リハビリテーション加算の実施数は、月平均 12.4 人、月平均回数 128 回でした。対象となるご利用者を自宅復帰の可能性の有無に関わらず加算対象を広げ、かつ自宅復帰の可能性のある対象者には週 4-5 回を実施した。新規入所者に対する実施率は 98.7% でした。

ク. 長期入所者 認知症短期集中リハビリテーション加算

延べ実施人数と実施回数 90 人、872 回

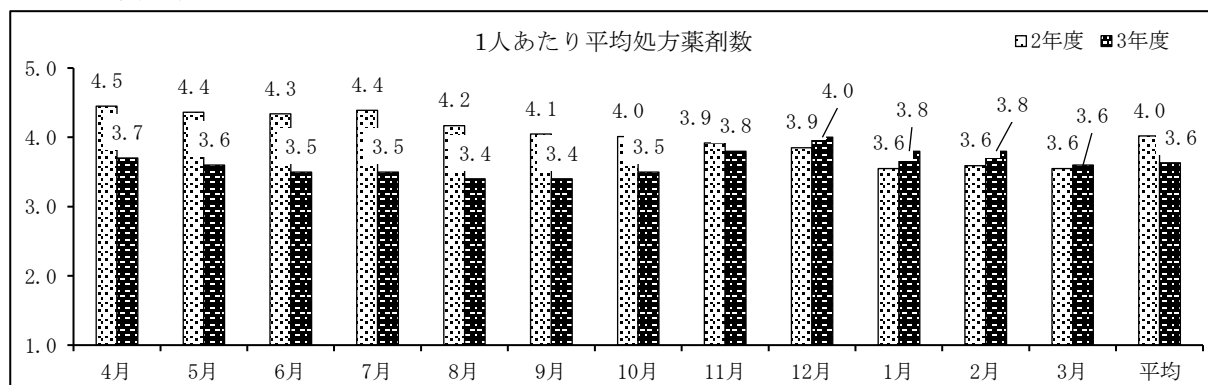
月平均人数 7.5 人 (2 年度 2.7 人) 最大数達成率 93.0% (2 年度 93.5%)



認知症短期集中リハビリテーション加算の実施数は、月平均 7.5 人、月平均回数 72.7

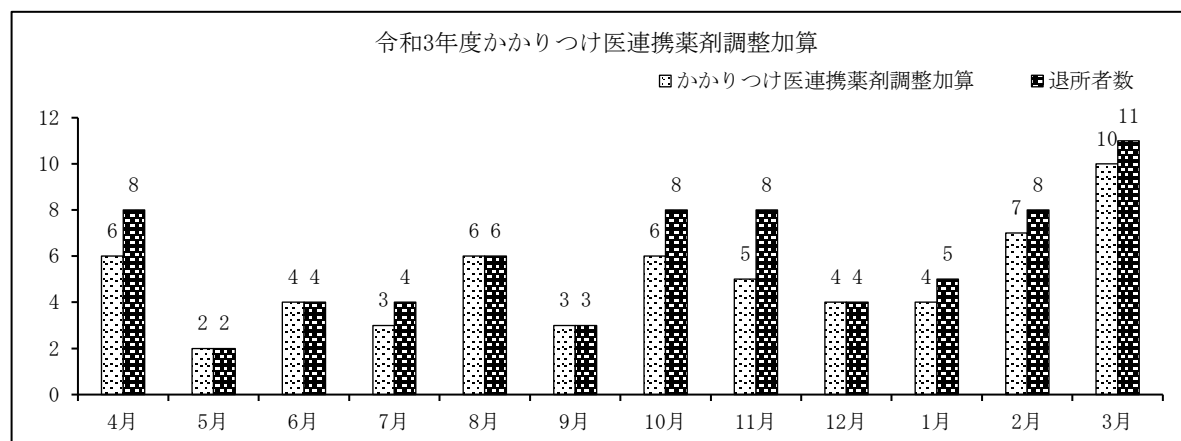
回でした。最大数（週 3 回）実施するよう取り組み達成率は 93.0% でした。

ケ．薬剤調整



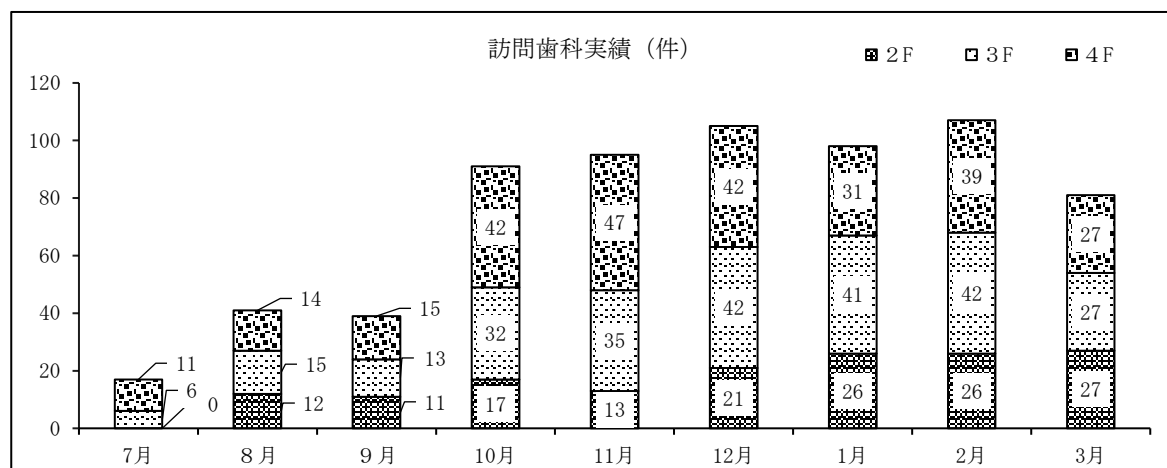
昨年度の 1 人あたりの平均処方薬剤数は 4.0 剤でしたが、今年度は平均 3.6 剤でした。薬剤師と連携してポリファーマシーが改善されています。

コ．かかりつけ医連携薬剤調整加算（Ⅰ～Ⅲ）



かかりつけ医連携薬剤調整加算は退所時に 1 回算定するものであり、退所者数 71 件のうち 60 件算定しています。算定できなかったケースに検査入院や数日の短期入院、死去があげられます。

サ．訪問歯科実績

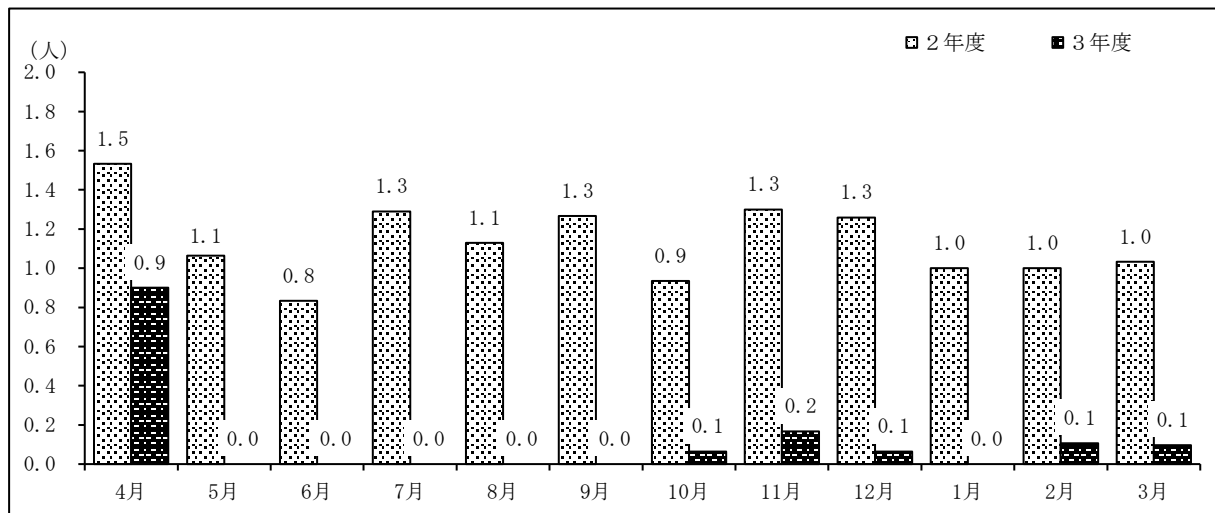


7月から大府市内のつばめ訪問歯科による往診が週3回行われています。10月以降は嚥下機能の低下が見られるご利用者に対する嚥下機能評価が実施されています。食事形態と食事摂取の見直し、口腔ケア、嚥下訓練等について指導を受けて肺炎防止に向けて取り組んでいます。

②短期入所 利用状況

ア. 各月利用者数 年間平均利用者数 0.1人/月 (2年度 1.1人/月)

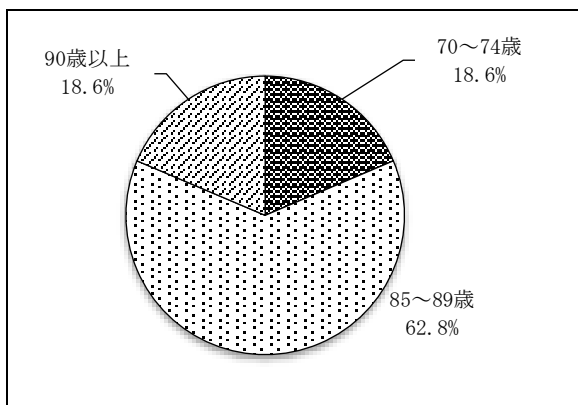
利用実人員・延利用日数 11人 42日 (2年度 21人 500日)



令和3年5月からショートステイは空床利用としました。11人のご利用者が合計42日間ご利用されました。国立長寿医療研究センターの地域包括ケア病棟から入所されるご利用者が5人見えました。

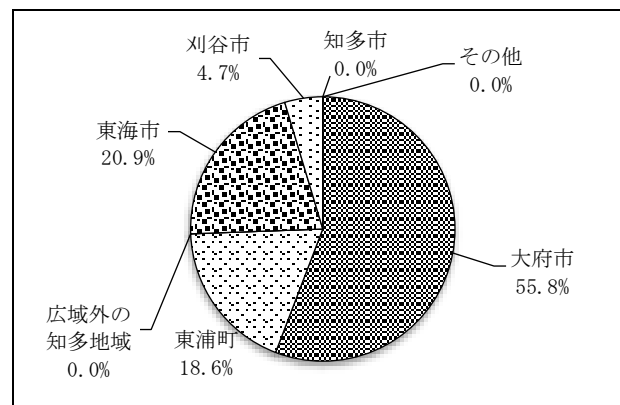
イ. 年齢別利用割合

平均 85.3 歳 (2年度 84.0 歳)



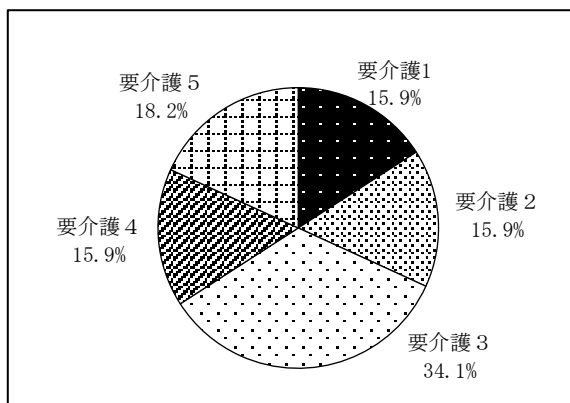
平均年齢は昨年度と比較して 1.3 歳上昇しています。

ウ. 住所地別利用割合



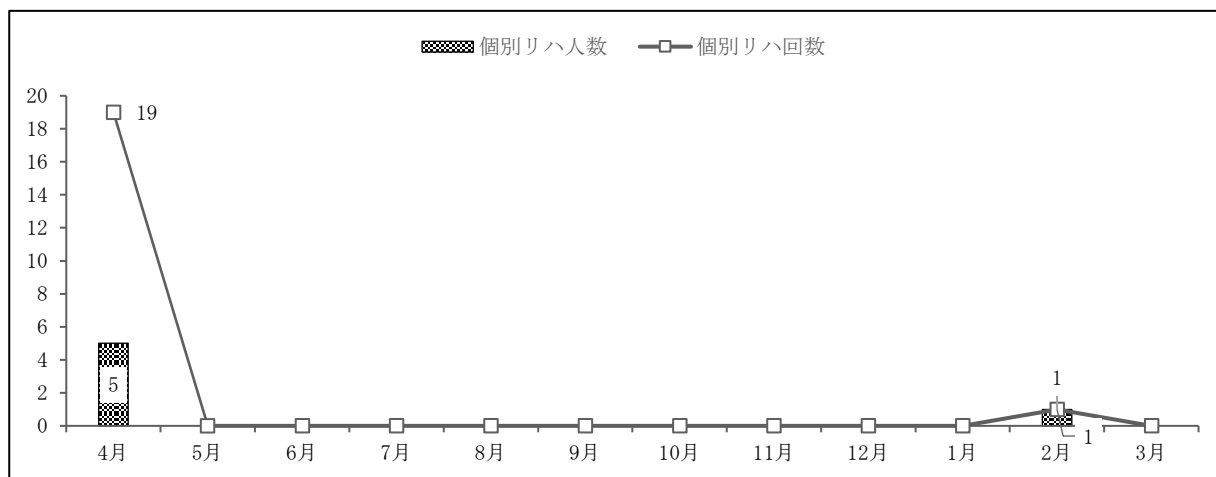
大府市在住の方が約6割を占めています。

エ. 介護度別利用割合 平均 3.0 (2 年度 3.2)



平均介護度 3.0 でした。昨年度と比較して 0.2 軽度化しています。

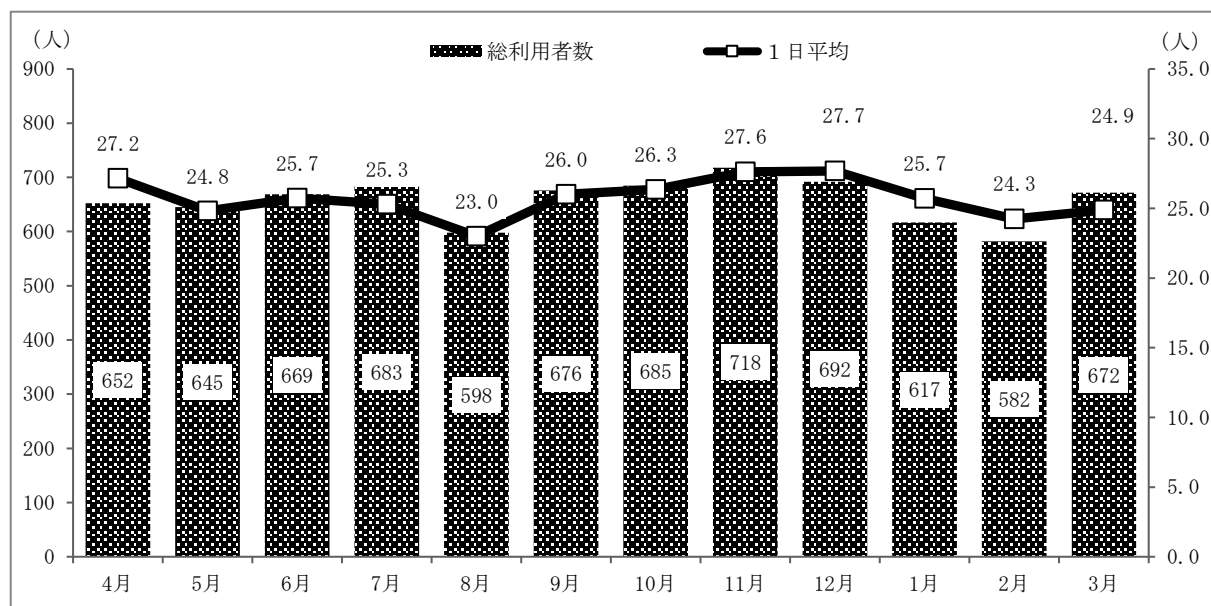
オ. 短期入所 個別リハビリテーション加算 実施人数と実施回数
年間実施 6 人、20 回



短期入所者の個別リハビリ実施は 4 月・2 月のみでした。

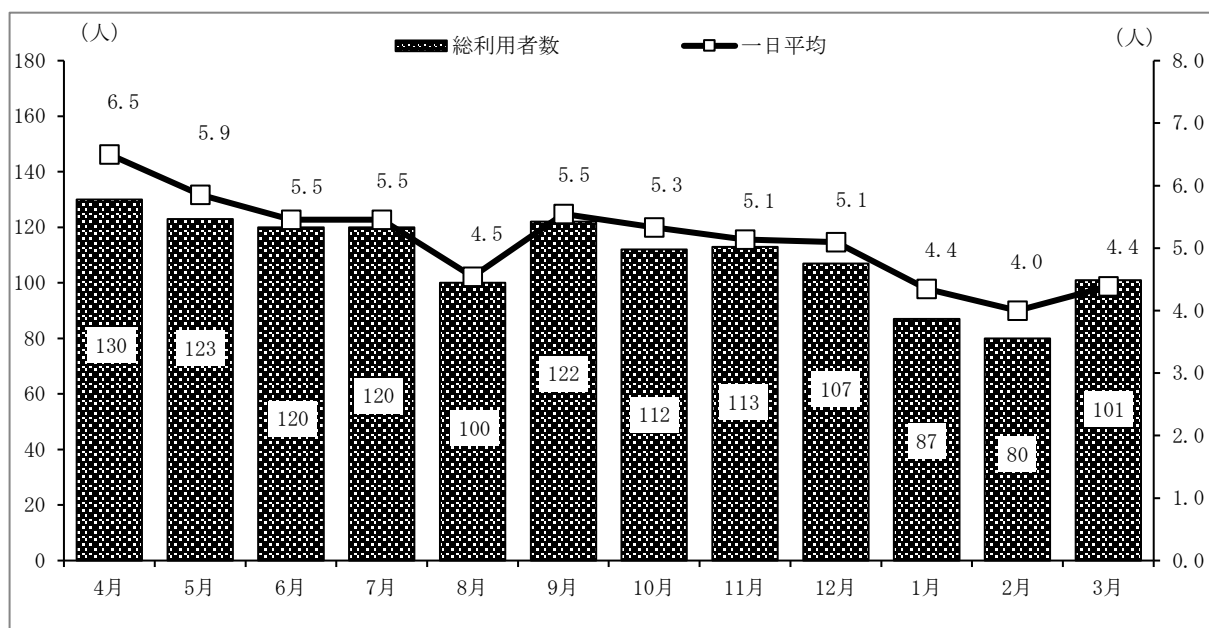
③通所リハビリテーション 利用状況

ア. 一日コース (6~7 時間) 平均 25.7 人/日



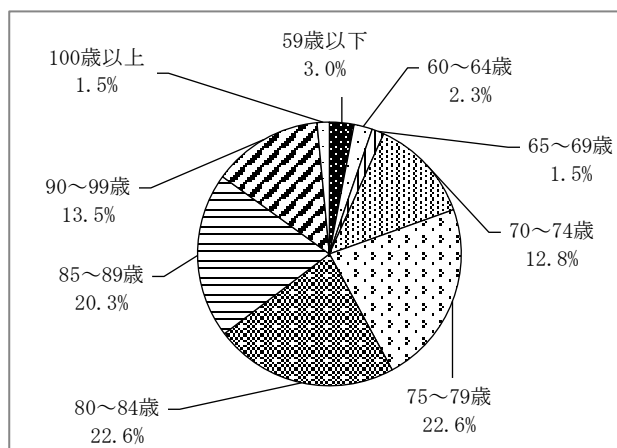
4 月にご利用者が生活している住宅型有料老人ホームで新型コロナウイルスのクラスターが発生。複数名のご利用者が濃厚接触者疑いと判断されたため 2 日間臨時休業をしました。8 月と 1 月にご利用者の感染と職員が濃厚接触者となり合計 3 日間臨時休業をしました。営業再開後も大事を取って休まれる方もおり、感染症の影響による欠席者は合計 246 人となり利用者数の減少となっています。早めの感染対策によりクラスターが発生することなく営業できています。

イ. 短時間（1～2 時間、2～3 時間） 平均 5.1 人/日



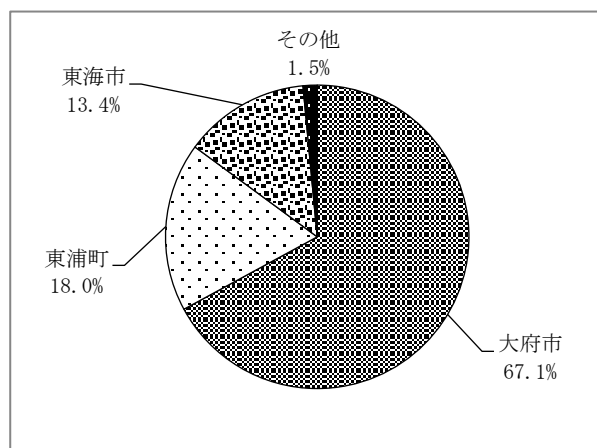
新型コロナウイルス感染症の影響で 4 月、8 月、1 月に 5 日間臨時休業しました。感染症の影響で合計 59 人が欠席しました。

ウ. 年齢別利用割合 (2 年度 81.23 歳)



平均年齢は 80.9 歳でした。昨年度と大きな変化は見られませんでした。

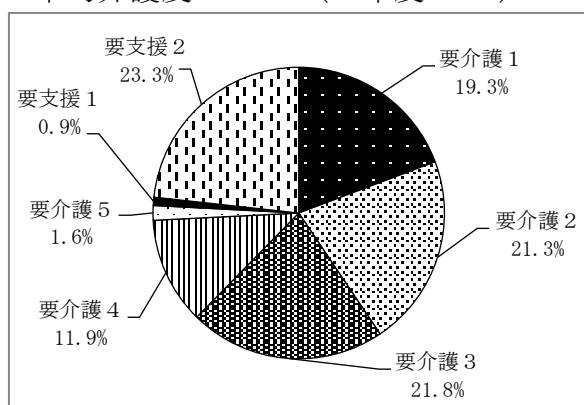
エ. 住所地別利用割合



全体の約 8 割が大府市と東浦町在住の方がご利用されています。

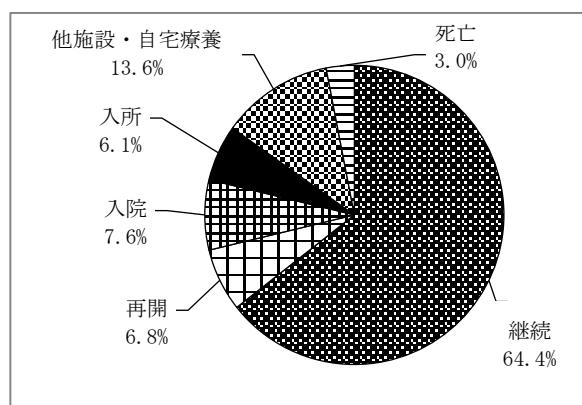
オ. 介護度別利用割合

平均介護度 1.79 （2年度 2.08）



平均介護度は 1.79 でした。要支援の割合が 24.3% で年々増加しております。

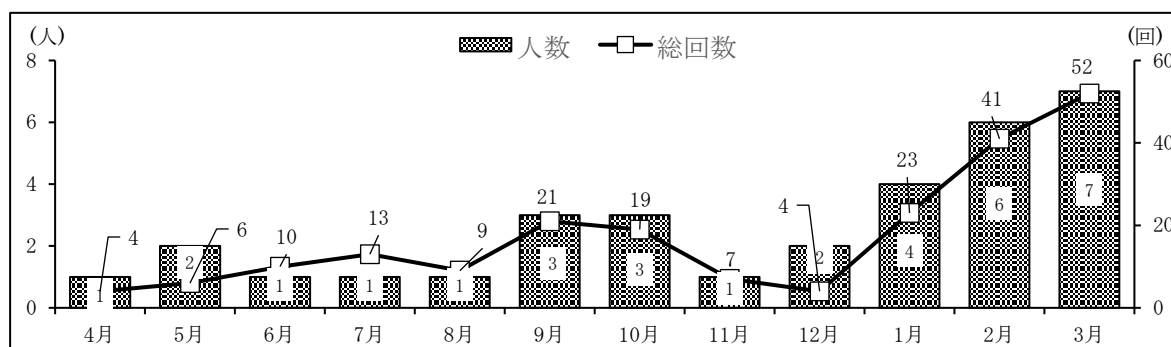
カ. 利用継続率と利用中止理由



64.4%の方が利用継続されています。入所の 62.5%の方が当施設の入所へ繋がりました。

キ. 通所 短期集中リハビリテーション加算・実施人数と回数（実施率 100%）

対象者：平均 30.7 回／月（R2 年度 平均 17.4 回／月）



短期集中リハビリテーションはご本人・家族の意向とケアマネジャーの支援計画に沿って実施しました。令和 2 年度月平均 17.4 回より 13.3 回増加し月平均 30.7 回でした。

（2）部門別報告

①相談部門

ア. 入所率 95%以上の確保

今年度の平均利用者数（月）は長期入所者が 94.37 人（月）、短期入所者が 0.1 人（月）で長期・短期入所を合わせると 94.47 人（月）（入所率 94.48%）でした。昨年度は 94.62% で前年度と比較して 0.14% 減少しました。今年度の入所者 69 人に対して医療機関から 55 人、その内の協力医療機関から 35 人の入所でした。特に国立長寿医療研究センターとは立地も近く、各病棟専属のソーシャルワーカーとの連携が図れました。結果として新規入所相談件数も多く当施設の空床情報の提供や再入所相談も積極的に行うことができ、空床期間の短縮につながりました。在宅からは

13 人の入所となっており、ケアマネジャーと在宅復帰に際して電話や書面での連携を取りながら 13 人の方が在宅復帰することができました（退所者総数 69 人）。特別養護老人ホームへの退所は 10 人と昨年の 7 人より 3 人増加しています。法人内の訪問看護・通所リハビリ・グループホームと月 1 回情報共有の会議を実施し、左記の事業所から紹介で入所につながったケースが 4 件あり今後も継続して取り組む予定です。

イ．在宅復帰・在宅療養支援機能加算の取得継続に向けた取り組み

昨年度と同様にベッド回転率・入所前後訪問指導割合・退所前後訪問指導割合の取得は継続できました。40 点の指標を確実にするために、「喀痰吸引の実施割合」5%の取得を目標に嚥下状態に不安のある方を対象に訪問歯科医師による嚥下評価を実施、吸引の必要性を確認した上で令和 4 年 3 月時点で対象者 5 人に適宜吸引を実施しています。今後も継続して取り組みます。

ウ．入所前後訪問指導・退所前後訪問指導

今年度もコロナ感染状況は厳しいものであり、感染対策上対面で行う代わりに書面や電話など代替の方法によって施設内外のサービス事業所と情報共有を図り、自宅とその他施設を合わせて 13 件スムーズな自宅・施設退所につなげました。

エ．ボランティア活動の受け入れについて

新型コロナウイルス感染流行を受け今年も直接利用者と接触するボランティア受け入れは中止しました。

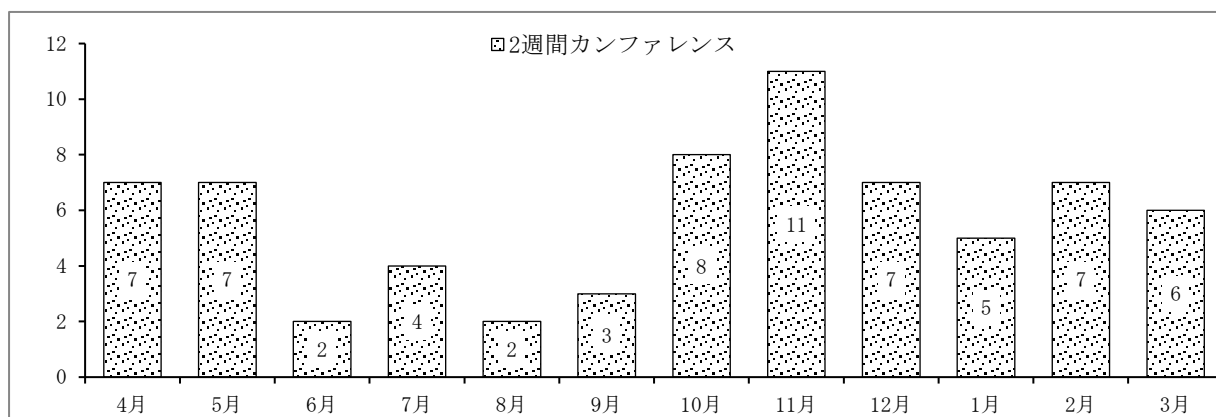
オ．地域支援事業の一環として介護予防教室の開催

新型コロナウイルス感染流行を受け介護予防教室開催はできませんでしたが、認知症カフェを開催しました。

カ．ホームページ活用による新規利用者の獲得、地域家族間のネットワーク構築

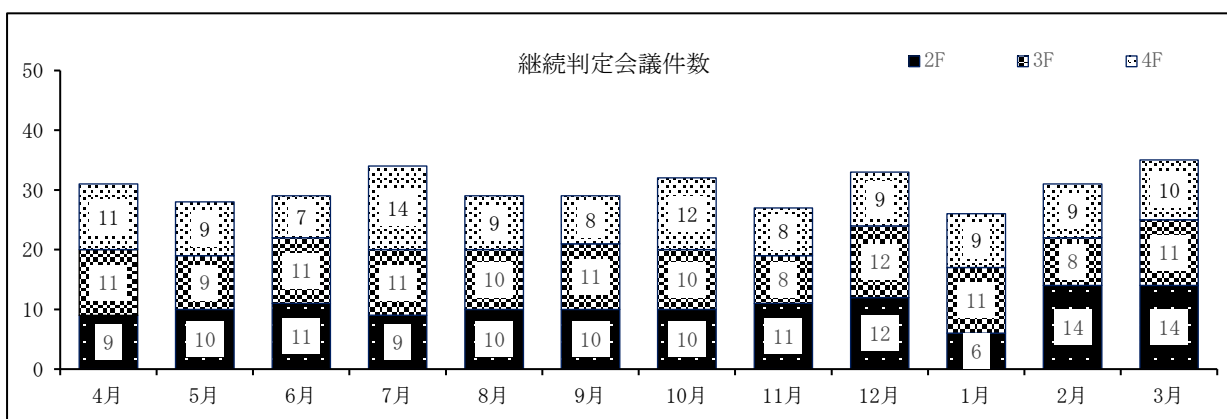
新規入所相談にて家族様から「ホームページを見て電話しました」「病院から施設を紹介されてホームページをみました」というお声が増えています。閲覧件数 8364 件（年）と昨年度より 2158 件増加しており、新聞委員会による週 1 回の新着情報のアップやコロナマニュアルの掲載等ホームページの活用が地域や家族様のつながりに寄与していると思われます。

キ. カンファレンスの充実について



新規入所者に対し各フロアで 2 週間カンファレンスを確実に実施し、適宜ケアプランの修正や追加を行うことができました。

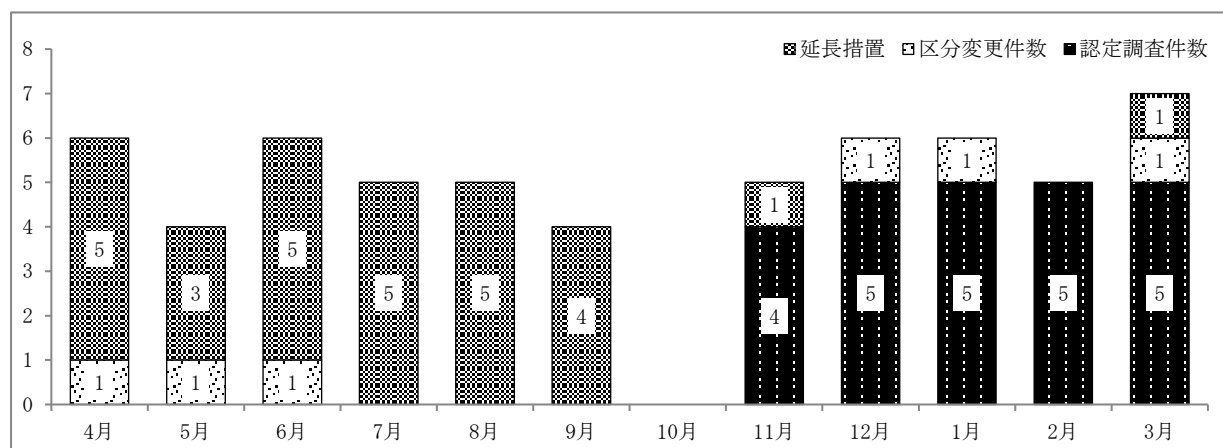
ク. 継続判定会議の開催



在宅復帰促進、状態悪化や長期入所者に対する適切な退所支援を行うため継続判定会議を実施 各フロア月平均 10.1 件でした。

在宅等復帰としては自宅退所 6 件、介護付き有料老人ホーム 3 件 住宅型有料老人ホーム 4 件、介護保険施設（特別養護老人ホーム）へは 10 件でした。

ケ. 適切な区分変更の実施

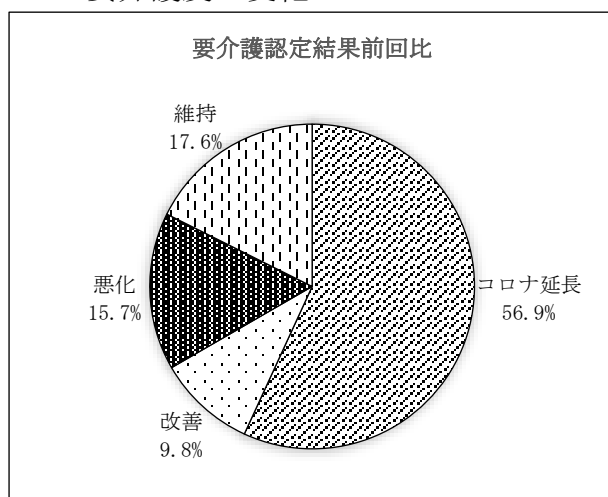


令和 3 年 4 月から認定の有効期間が最長 4 年間になりましたが、今年の認定調査件数

は 59 件と昨年の 44 件を上回る結果となっています。要因としてはコロナ感染対策としての認定調査の延長措置が 10 月で終了したため、延長措置にて 1 年間の有効期間の方が本来の更新のための認定調査を行うことになったためです。

区分変更は 6 件で昨年の 11 件を下回る結果となりました。

コ. 要介護度の変化



コロナ感染対策としての認定調査の延長措置をした割合は 56.9%でした。要介護認定調査の結果、状態が維持改善し介護度が前回よりも軽くなった利用者は全体の 27.4%でした。

サ. その他

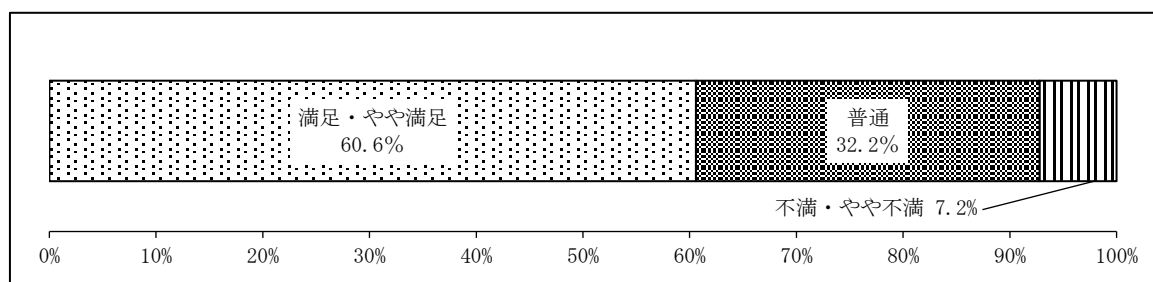
今年度は大幅な介護報酬改定があり、新たに新設された加算（科学的介護推進体制加算Ⅰ・自立支援促進加算・リハビリテーションマネジメント計画書情報加算・栄養マネジメント強化加算・かかりつけ医連携薬剤調整加算・口腔衛生管理加算Ⅱ）取得に取り組みました。相談員としては科学的介護推進体制加算 60 単位／月と自立支援促進加算 300 単位／月について加算要件を満たすために各職種と協働して取り組みを実施、かかりつけ医連携薬剤調整加算は当施設医師・薬剤師・入退所先の医療機関との連携を実施、口腔衛生管理加算については委員会を通じて訪問歯科医師・歯科衛生士と各職種との連携にてそれぞれの加算を取得し安定した収入源となりました。（科学的介護推進体制加算・自立支援促進加算は体制加算のため全利用者対象、かかりつけ医連携薬剤調整加算Ⅰ～Ⅲ年間合計 60 件、口腔衛生管理加算月平均 32 件）また上記の加算は L I F E（科学的介護情報システム）への情報提供が必須で他職種と協働して取り組みました。

②栄養部門

ア. 嗜好調査を 4 年 2 月に行いました。

対象者 155 名、回答率 98.1%（本人回答 67.0%、聞き取り 33.0%）

満足度は（満足・やや満足）60.6%と目標の 70%以上は未達成でした。入所者の満足度に変化はなく、通所ご利用者の満足度が減少した分、普通回答が増えました。調理担当者の退職による応援体制が続き、味付けや仕上がりの不安定さ、メニューのマンネリ化、新型コロナウイルスによる調理レクの減少や、調理担当者の新型コロナウイルス感染による非常食の提供などにより満足度が低下する原因となりました。



前年との比較

%	満足 やや満足	普通	不満 やや不満
3年度	60.6	32.2	7.2
前年比	-12.4	+11.9	+1.2

- ・食事委員会は職員及び給食委託業者で組織し、食事サービス向上に向け、月1回開催しました。月1回の行事食、週1回の選択食を実施しました。

- ・衛生管理に努めました。

個人衛生管理、施設設備管理、原材料の取扱管理、器具類管理、食品取扱管理、廃棄物管理等については、点検表を設け管理を行いました。主なものとして、使用水の残留塩素濃度（毎日、始業時・終業時）の測定、毎食ごとの加熱食品の中心温度の測定等39項目について行いました。

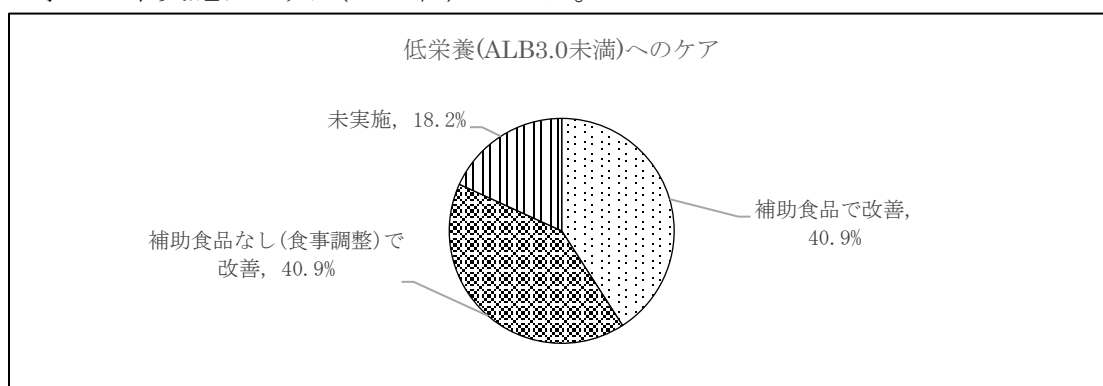
- ・食中毒予防として、検収場での品質・鮮度・品温・異物混入等の点検、調理器具の洗浄・消毒・乾燥等、厨房スタッフへの教育を徹底しました。（5、12月実施）

イ. 適切な栄養ケアマネジメントを実施しました。

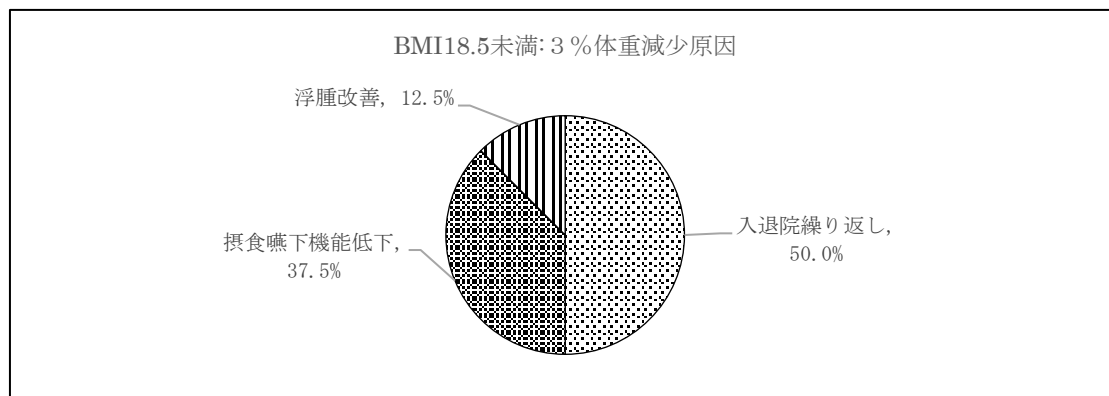
- ・入所者に対して栄養スクリーニングを実施し、3ヶ月毎のアセスメントを実施する事により、低栄養状態（ALB3.0未満）のリスクがある入所者を把握し、栄養計画に反映させました。（新規入所者：69人を含む延べ344人）

- ・低栄養リスクの高い入所者に対して、低栄養状態を改善する為の計画を作成し、栄養ケアを行いました。（病院からの入所者22人）

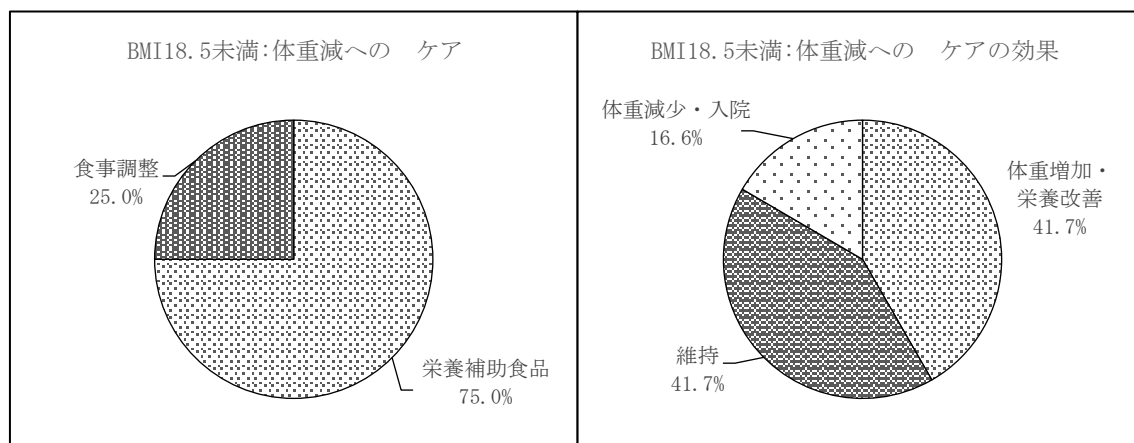
その結果、栄養補助食品にて改善は9人（40.9%）、栄養補助食品なし（食事形態、嗜好、食事量等の調整）で改善は9人（40.9%）、摂取量不良、嚥下機能低下、入院等での未実施は4人（18.2%）でした。



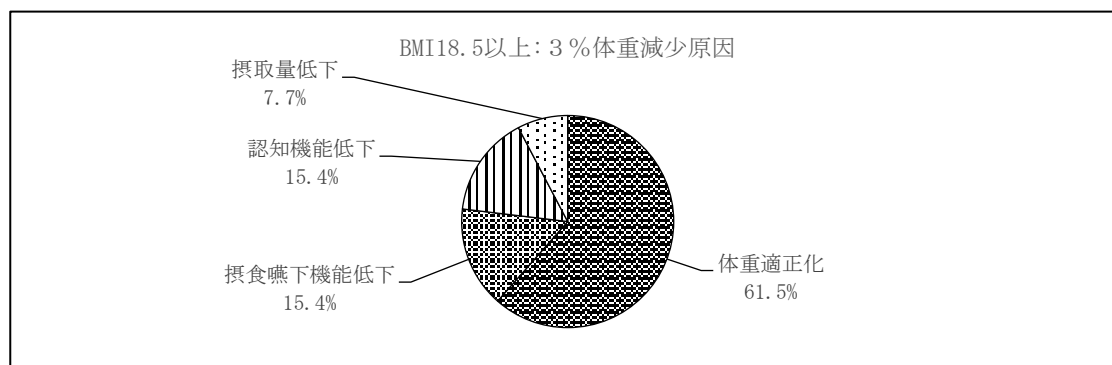
- ・BMI 18.5 未満の入所者の内、直近 6 か月で 3%以上の体重減少があった入所者は 8 人でした。(入退院繰り返し：4 人 (50%)、摂食嚥下機能低下：3 人 (37.5%)、浮腫改善：1 人 (12.5%))



- ・BMI 18.5 未満で体重減少がみられた入所者 12 人に対し、栄養補助食品を使用した方は 9 人 (75.0%)、食事内容の調整をした方は 3 人 (25.0%) でした。その結果、体重増加、栄養改善をした方は 5 人 (41.7%)、維持の方は 5 人 (41.7%)、体重減少、入院の方は 2 人 (16.6%) でした。



- ・BMI 18.5 以上の入所者の内、直近 6 か月で 3%以上の体重減少があった入所者は 13 人でした。(適正体重化：8 人 (61.5%) 内、BMI 25 以上の高度肥満者 5 人)、摂食嚥下機能低下：2 人 (15.4%)、認知機能低下：2 人 (15.4%)、摂取量低下：1 人 (7.7%))



- ・栄養充足率（摂取量/必要量）はエネルギー108.6%、蛋白質 103.8%でした。

ウ. 摂食、嚥下困難な入所者への栄養ケアを実施しました。

- ・訪問歯科などの他職種と連携し、適宜嚥下評価を実施し、誤嚥性肺炎や低栄養や褥瘡の予防に努めました。
- ・医師の指示に基づき、経口により食事を摂取している方で、著しい摂食障害があり誤嚥が認められる入所者に対して、経口維持計画書（摂食・嚥下機能に配慮した計画、他職種による評価、記録）を作成しました。

（経口維持加算（Ⅰ）8名）

訪問歯科による嚥下評価は7件、その内6件が経口維持加算算定者となりました。

（残り1件は経口維持算定基準には満たないとの評価）

エ. 提供食数

食種ごとの食数表（令和4年3月・昼食の平均）

主 食						
米飯	軟飯	全粥	粥ミキサー	粥ソフト	パン	合計
56	25	33	2	2	3	121

副 食					
常食	一口大	刻み	ミキサー	ソフト	合計
50	31	31	5	4	121

- ・実習生の受け入れはありません。

③看護・介護

ア. ご利用者・ご家族の満足度の向上

- ・サービス向上委員会の活動の一環で行っている、ご家族の職員に対する満足度調査では、「普通以上」の評価 90%の目標を、コロナ禍においても達成できました。
- ・対面式面会は10月～1月の短期間で、そのほかはすべてオンラインの面会でした。少しでも快適な環境で面会できるよう設備機器の改善に努めましたが、改善の余地は残されています。
- ・洗濯物の取次に関するご意見が比較的多くみられたことから、施設の回答書を貼付し、配慮不足の点はお詫びし、理解を得るよう努めました。
- ・昨年同様、職員の自己点検シートを基に個人アクションプランの振り返りを実施、サービス向上に取り組みました。

イ. 事故・感染に関するリスクマネジメントの徹底

- ・事故防止委員会は毎月委員会を開催、今年度はヒヤリハット集計のオンライン化に取り組むことができました。集計結果を基に、重点的な対策の構築に取り組んでいます。
- ・フロアの行動制限チェック表には転倒防止器具を一覧で記載し、使用状況が一目で分かるようにしています。転倒転落アセスメントの点数も記入、適切な使用状況が

など物品の管理に役立てています。

- ・施設において、衝撃吸収マットをほぼ利用していなかったことから、3社からサンプル見本をレンタルし、各フロアで試してみました。価格、重さ、操作性などから1社を選出することができました。
- ・感染委員会も毎月委員会を開催。
消毒液の消費量の定期報告を行い、物品管理と予防対策の徹底につとめました。
- ・関係職員を含めた全職員に対し、月2回程度PCRのスクリーニング検査を実施しました。その結果、無症状で陽性反応が出た職員は、8月に1名、3月に1名となりました。家庭内感染が疑われる職員の感染が3月に2名出現いたしましたが、早期対応で利用者への感染は防止することができました。
- ・職員の感染が明らかとなった段階には、朝・夕(16時)オンラインも活用しながら、情報共有のミーティングを開催することができました。

ウ. ケアの質の担保

- ・感染小委員会主催学習会2回、eラーニング(75名)とWeb講演会(51名)に参加し、感染予防対策のブラッシュアップに努めました。
 - ・転倒予防学会のオンデマンド研修に委員会メンバーが分担し参加、その後フロアのスタッフにも参加してもらい計31名参加することができました。新たな知見に触れる機会となりました。
 - ・権利擁護研修および認知症研修では、部署内で資料配布と少人数での話し合いを行いました。
 - ・昨年同様、部署ごとに取り組んだ研究の結果をポスターで発表することができました。
 - ・歯科医師による往診を週3回、1日9人程度実施しました。日程や使用物品の購入方法を調整しながら、実施することができました。
- 肺炎で入院したご利用者は令和元年9件、2年11件、3年11件でした。

エ. 利用者の安心と働きやすい職場作りのための業務改善

- ・精神面の病気休暇後、常勤者の退職が2名、6月、8月と続いたため、他フロアからの応援や配置換え等で対応しました。10月より、有料の紹介サイトから非常勤職員4名、派遣職員5名を採用しましたが、短期間で離職する人も3名ありました。非常勤の中から、夜勤が可能な常勤として育てる方向で検討しています。
- ・代休の取得率は100%であり、有給取得日数の平均は10.4日でした。

④リハビリ部門

ア. 老健入所者のリハビリテーションについて

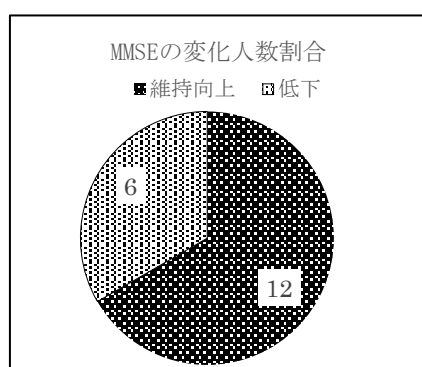
- ・コロナ禍に対する感染拡大予防のため職員体制を見直した。5月からリハビリ職員の兼務を中止し、フロア間の移動も最小限とする職員配置(各フロア担当制)でのリハビリ提供とした。その為、週2回の個別リハビリの拡充が困難となり、集団リハビリの導入で対応した。また、通所利用者との接触を避けるために、機能訓練室での

個別リハビリを中止し、フロアでのリハビリが充実して行えるよう取り組みました。

- ・在宅復帰の可能性の有無に関わらず、対象期間で体調に問題のない利用者すべてに、短期集中リハビリを提供し対象人数が低下しないよう努めました。
- ・認知症の短期集中リハビリの実施は、実施条件を満たす利用者には自宅復帰の可能性の有無に関わらず実施しました。その為、対象者を大幅に増加する事ができました。体調が安定している利用者についてはコロナ禍の職員体制でも、概ね実施することが出来ました。

新規入所者のリハビリ評価結果は以下の通りでした。

・認知症短期集中リハビリ実施者の評価結果

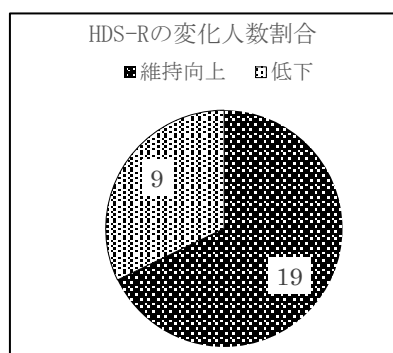


令和3年度に認知症短期集中リハビリを開始し、終了している入所者は18名でした。

認知機能評価（MMSE）の変化人数割合では66.7%で維持向上が図れました。

中央値の比較も実施前18点が実施後19点で有意差はなく認知機能を維持することが出来ました。

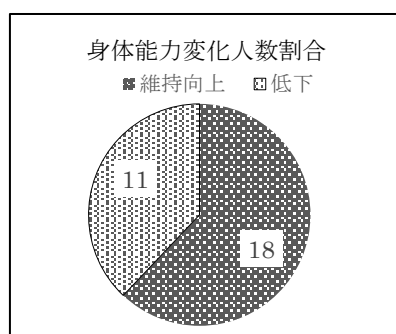
・短期集中リハビリ実施者の評価結果



令和3年度に短期集中リハビリを開始し、終了している入所者は28名でした。

認知機能評価（HDS-R）の変化人数割合では67.9%で維持向上が図れました。

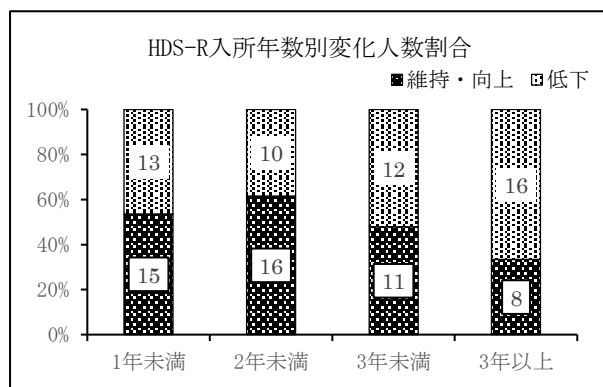
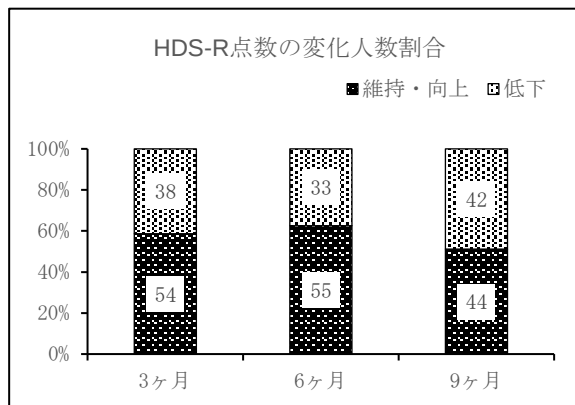
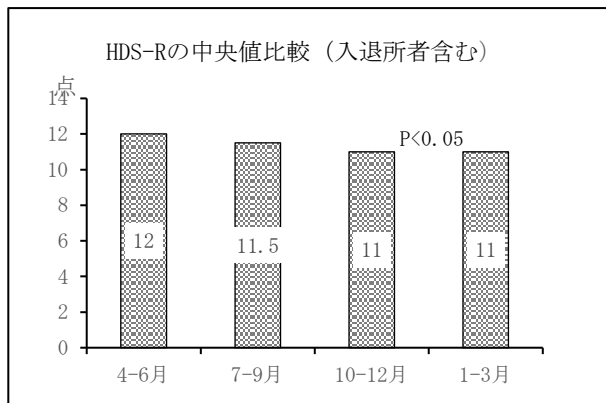
中央値の比較も実施前15点、実施後17点で有意差はなく維持することが出来ました。



身体能力変化の人数割合では62%で維持向上が図れました。

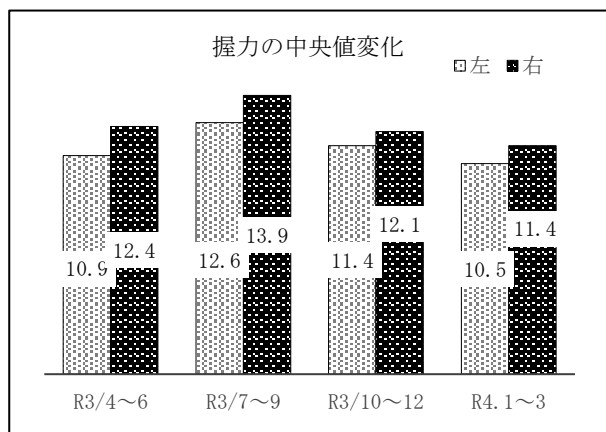
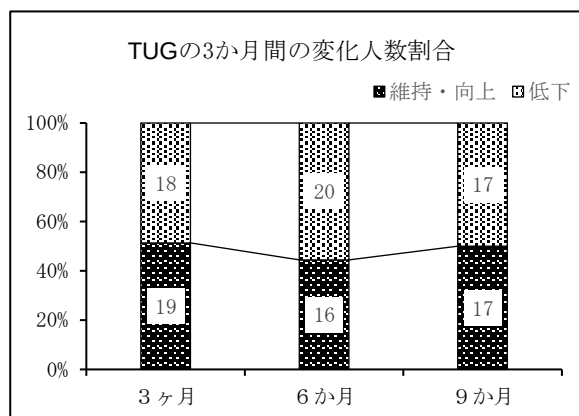
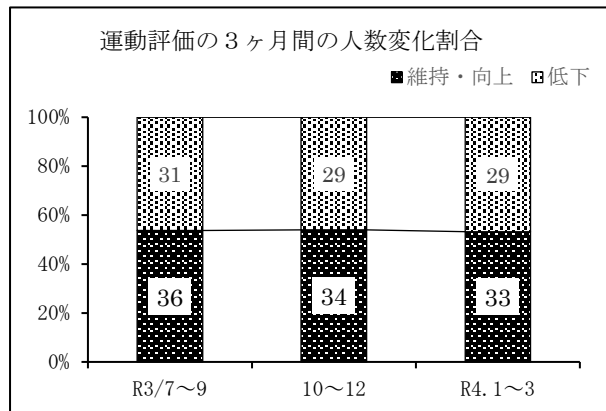
特にTUGが前後で実施出来た17名については、改善12名低下5名と70.5%で維持向上が図れました。中央値の比較は実施前32.4秒実施後25.2秒でしたが有意差は見られませんでした。

・入所者全体におけるリハビリ評価結果は以下の通りでした。



認知機能（HDS-R）の評価結果は、年度終わりに向け低下群が増え、1-3月では約半数が低下群となり、中央値の比較でも、10-12月と1-3月の間で、 $P<0.05$ で有意差があり、低下していました。

入所年数別に比較すると、入所年数が2年以上となると低下群が増加しました。



運動評価は、入所者の身体能力に合わせて5種類（TUG、5m歩行時間、車椅子5m駆動時間、30秒間の立ち上がり回数、立位保持時間）から1種類を実施しました。入所者の運動評価は多種類であり、統計学処理は行えませんでした。個別での運動評価の3ヶ月間の変化は、維持・向上群がいずれの期間でも低下群より上回っていました。全体の約40%が実施できているTUGは、徐々に低下群が増加しました。

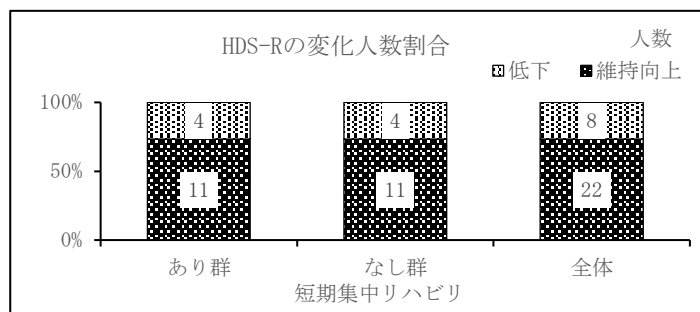
握力の中央値は徐々に左右共低下しました。

- ・短期入所者個別リハビリについては居宅の介護支援専門員のケアプラン上で設定されている予定回数を概ね実施出来ました。

イ. 通所リハビリテーションについて

居宅の介護支援員のケアプラン上で設定された、短期集中リハビリ加算は 100%実施しました。令和 3 年度に新規で通所リハビリをご利用され 3 ヶ月以上の継続利用が出来たご利用者は 31 名で、その内、短期集中リハビリを実施したのは 16 名でした。

新規ご利用者のリハビリ評価結果は以下の通りでした。

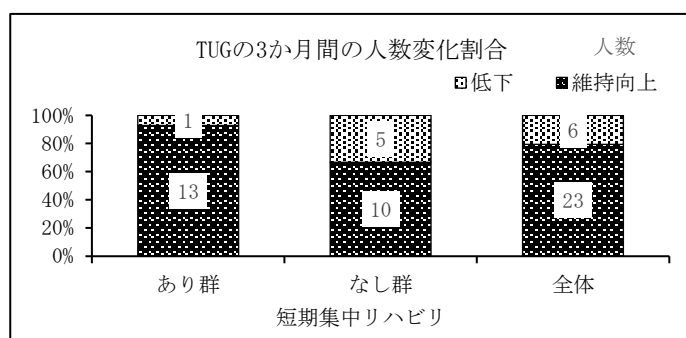
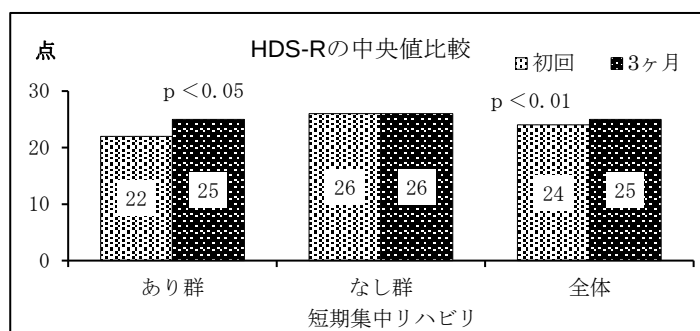


新規ご利用者 31 名中、認知機能評価 (HDS-R) が実施できたのは 30 名でした。

新規ご利用者は短期集中リハビリの有無にかかわらず 73.3%で認知機能の維持向上が図れました。

特に、短期集中リハビリあり群は中央値が 22 点から 25 点となり、 $P<0.05$ で有意差があり、向上していました。

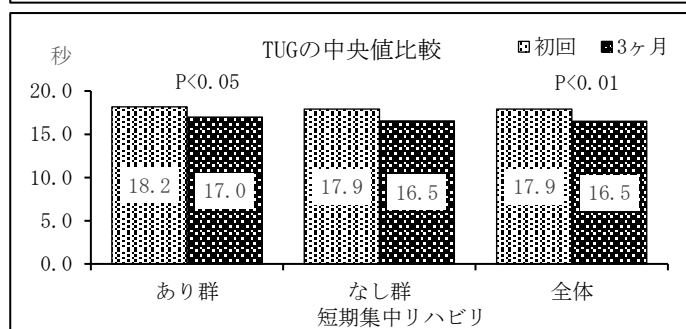
全体の中央値は 24 点から 25 点で $P<0.01$ で有意差があり向上していました。

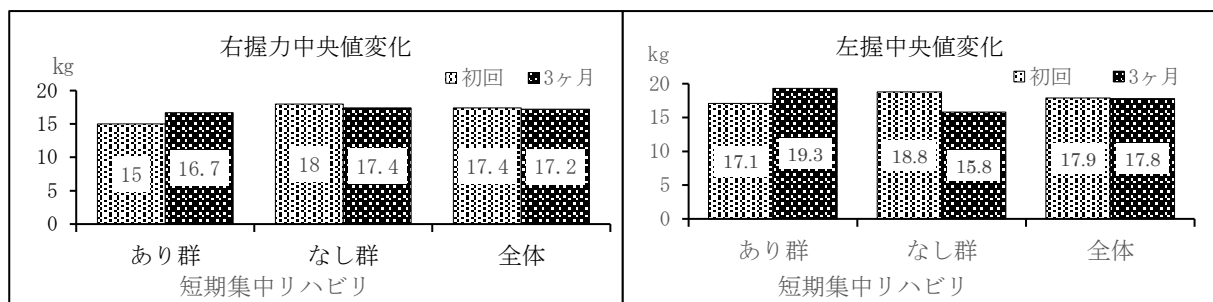


新規ご利用者 31 名中、移動・バランス評価 (TUG) が実施できたのは 29 名でした。その内、2 名は初回評価時には測定困難でしたが、短期集中リハビリ後には実施可能となりました。

短期集中あり群となし群ではあり群 92.9%なし群 66.7%とあり群の方が維持向上人数の割合が多く見られました。

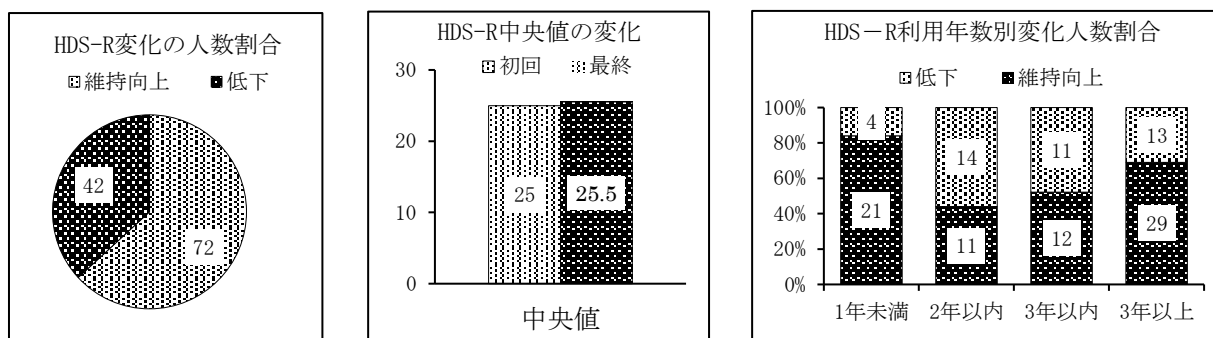
中央値の比較でも短期集中あり群は 18.2 秒から 17.0 秒に $P<0.05$ で有意差があり改善しました。全体では、17.9 秒から 16.5 秒に $P<0.01$ で有意差があり改善しました。



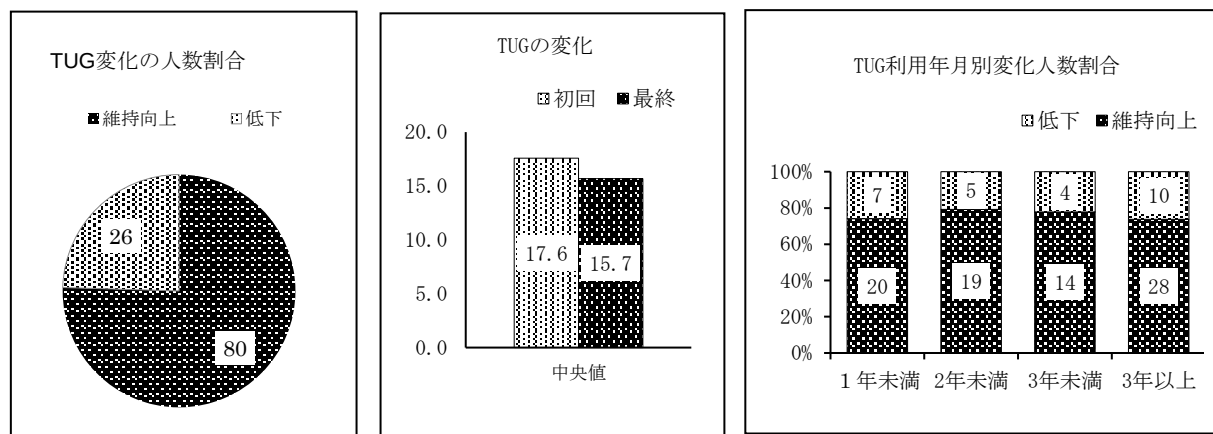


握力に関しては左右とも大きな変化は見られませんでした。

令和3年度に3か月以上継続利用が出来た全ご利用者115名の評価結果は以下の通りでした。



認知機能（HDS-R）の評価結果は、初回と最終の中央値に有意差はなく、63%の利用者で維持・向上出来ました。利用年月別で比較すると、1年以上から3年未満の期間で低下する利用者の割合が高くなりますが、利用開始から1年未満のご利用者では84%で維持向上が図れました。



歩行・バランス評価（TUG）の評価結果は、初回と最終の中央値に有意に改善があり、75.5%の利用者で維持・向上出来ました。利用年月で比較しても、継続的に通うことが出来ているご利用者は3年以上になっても73.6%で維持向上が図れました。

ウ．訪問リハビリテーションについてはコロナ禍の影響もあり今年度は実施しませんでした。

エ．実習生はコロナ禍の影響で受け入れはしませんでした。

⑤通所リハビリ部門

ア. 安定した利用者数の確保について

- ・ 利用体験は 21 人でした。その内本利用に繋がったのは 16 人です。
76%が利用に繋がっており満足度は高いと考えます。
- ・ 近隣の居宅介護支援事業所とは、大府市が主体となり管理しているインターネット上の情報共有サイト「おぶちゃん連絡帳」の活用も徐々に広がり、細かい情報やデータの共有が可能となっています。
- ・ 利用者数は 1 日コースの目標 28 人に対して 26 人でした。
短時間コースの目標 7 人に対して 5 人でした。

イ. 在宅生活が健やかに継続できるよう自立支援の展開

- ・ 計画書の作成、見直しを適切に行い、目標の把握と対応を続けるよう心掛けました。
- ・ 連絡帳を基本とし細かく情報共有を家族と行いました。
新型コロナ流行の為、リハビリスタッフの訪問は極力控えましたが、送迎時のお声かけ等を意識しました。
- ・ レクリエーションと季節行事を希望される方が多く、感染対策に留意した季節レクリエーションを毎月開催しました。しかし、緊急事態宣言が発令されている際は調理レクを控えた為、もっとやって欲しいとの声も聞かれました。
- ・ 新型コロナの感染対策としてご利用者、ご家族に毎日の検温測定、体調不良時の欠席協力を依頼し、対策に満足された方は 60%、対策に負担を感じている等不満に思われた方は 36%でした。

ウ. 安全運転で無事故での送迎に努める

- ・ 事故の情報をスタッフ間で即時に共有し、危険な場所の把握に努めています。

エ. おもてなしの心でふれあいケアを提供する

- ・ ご利用者の情報を各スタッフが把握し、好む話題やレクリエーションの提供、家族関係や身体の不安への傾聴を心がけています。

オ. 新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 机を追加購入し対面に着席しないように徹底しています。
- ・ ご利用者へ不織布マスクの装着を繰り返し説明、依頼しています。
- ・ 車内の感染を防ぐため、窓を開け、乗車時の人数が密にならないよう配慮しています。また、体温計を増やし乗車前の検温・消毒を行っています。
- ・ ご利用者及び同居者に対して毎日の検温に協力をしていただき、発熱などの兆候を早期に発見できるよう努めています。
- ・ ご利用者、同居者に発熱等異常があった場合は数日間の欠席を依頼しました。
- ・ 利用者間の感染を防ぐため、共有物品を減らし、共有せざるを得ないものは使用の都度、消毒を行っています。

- ・喫茶コーナーはスタッフへの注文方式にし、その都度手指消毒し提供しました。
- ・フロア入所者と、デイケアご利用者の接触を避けるため、入浴時間を厳密に区別し対応しています。
- ・ご利用者、同居者へ接触確認アプリ『COCOA』の説明やお勧めを、折に触れて行っています。
- ・スタッフ間の感染対策として、食事をする場所、時間を分けて対応しています。

(3) 委員会実施状況

委員会名	実施内容	結果
感染	① ルミナス版新型コロナウイルス感染対策マニュアルの改訂。 ② 学習会の実施 ③ 自己点検チェックリストの活用。感染予防物品の管理	①入浴介助時のゾーニング方法の改訂を行い、効率よくデイサービス利用者と、入所者が入浴できるようにしました。 ②フロア毎に、2 テーマを複数回実施することで、e ラーニング 75 名、WEB 講演会 51 名が参加できました。 ③消毒液の残量を毎月報告することで、消毒に関するスタッフの意識を高めるようにしました。 ＊しかし、PCR のスクリーニング検査で 3 名、家庭内感染で 2 名の職員がコロナウイルスに感染しましたが、利用者に感染することは、防ぐことができました。
事故防止	①転倒転落ヒヤリハット PC 入力、集計システムの立ち上げ ②行動制限・転倒防止器具使用者チェック表の見直しと転倒防止物品の管理。保護帽、ヒッププロテクターの採用 ③3 種類の滑り止めマットのトライアル ④学習会の実施	①集計システムの構築により、転倒事故の分析が可能となりました。 ②2 年度と比較し、97 件(転倒転落 85 件)、骨折者 5 名でしたが、今年度は、97 件(転倒転落 94 件)骨折者 1 名でした。 ③1 フロア 2 週間毎に、2 種類の滑り止めマットを試用しました。6 月に骨折事故がありましたが、以降骨折は見られませんでした。 ④転倒予防学会のオンデマンド研修は、部署毎に小グループで視聴。31 人の参加がありました。
研究・教育	① 権利擁護、感染対策、事故防止、権利擁護研修を部署ごとに実	① 研修に参加出来なかった職員にも資料を配布し、全職員が研修内容

	施 ② 施設内研究報告会をポスター掲示式で3月に実施	に目を通す事で、知識の共有に努めました。 ② 研究報告をポスター掲示式で実施する事で、人の密集を避けることもできました。さらに発表を聞くだけよりも、目にする時間があり、何度も見る機会が出来ました。
サービス向上	① 入浴物品・おむつの発注、管理及び、浴室用転倒予防マットの検討を行いました。 ② コロナ感染予防内容を含めた満足度調査より、オンライン面会に関するご意見要望が多く寄せられたため、回答書を公開しました。一階ロビーに掲示するとともに、ホームページにアップしました。	① 事故防止委員会とも協働して、転倒防止物品（滑り止めマット、保護帽、ヒッププロテクター）を必要な方の個人持ちとするよう、さらに検討を続けていきます。 ② これまでは調査を行い、委員会内で検討するのみでしたが利用者家族からのご意見をフィードバックしていく仕組みができました。
行 事	① コロナ禍により、施設全体での行事が実施出来ませんでした。その分フロアごとに行事を行いました。家族との面会の機会が失われたことからくるストレスの軽減に努力し、フロアごとのレクの企画を行いました。	① 全体委員会を2回実施しました。感染症対策のため、行事は全体で行わずに感染対策の上、フロア毎に行いました。
広 報	① 年4回の新聞発行 研究発表会の紹介、施設紹介、コロナ禍の過ごし方など ② ホームページの管理。 新着情報の週1回程度の更新	① 市役所、保健センター、公民館に新聞を置かせていただくだけでなく、相談員が外部施設へ出向く際にも新聞を配布して、施設の宣伝材料として利用してもらいました。 ② 閲覧件数が昨年度6206件に対して今年度は8364件と大幅に伸びました。
食 事	① 厨房職員同伴でのフロア巡回、嗜好調査 ② 月1回の行事食、週1回の選択食の実施 ③ 衛生管理点検	① 食事形態の調理基準の明確化、嗜好調査結果の改善 ② 行事食、選択食の提供

防 災	① 防災訓練前に実施(10月・3月)。 ② コロナの影響を考慮し、通常と違う方法を検討。	① 防災訓練を2回(全体訓練 10/14、地震想定訓練 3/15)実施しました。 ② 2年度の全体訓練は、コロナウイルスに対する感染対策として支援グループ、法人内の本部、認知症介護研究・研修大府センターと障害者福祉施設サンサン大府の応援は行いませんでした。 ③ 地震想定訓練については2年度に登録した職員一斉メールを利用し、地震発生と安否確認、職員参集をメールにて連絡できる体制を確認しました。 ④ 支援グループ総会についてはコロナウイルスの影響を考慮し、中止としました。
-----	---	---

(4) ルミナス大府夏祭り

毎年地域の方々のご協力により開催しているルミナス大府夏祭りは新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して中止としました。

全体行事としては中止をしましたが、各階でフロア毎の行事を実施しました。

フロア	月日	内容
デイケア	8月24・25・26日	夏祭り
2階	8月13・25日	小夏祭り ご利用者浴衣を着て雰囲気を楽しむ
3階	9月19日	小秋祭り
4階	9月19日	ビンゴ大会 景品を用意

(5) 地域貢献事業

①「カフェくちなし」として開催しました(3年度 参加者226人 10回開催)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加者数	17	24	22	19	19	中止	17	27	24	20	中止	37	226

参加者については認知症の当事者及び介護者が延べ78人、一般住民が35人、ボランティア・スタッフ等113人でした。

感染状況によりオンライン開催と対面開催を併用して実施しました。

②かがやき塾

令和元年度まで地域支援事業の一環として介護予防教室「かがやき塾」を年5回にわたり吉田公民館で実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の恐れがあるため、中止しました。

(6) 防災防火対策の取り組み

①防災訓練を2回（全体訓練10/14、地震想定訓練3/15）実施しました。

全体訓練は、コロナウイルスに対する感染対策として支援グループ、法人内の本部、認知症介護研究・研修大府センターと障害者福祉施設サンサン大府の応援は行いませんでした。

地震想定訓練については職員一斉メールでの地震発生と安否確認、職員参集の連絡体制の確認、防災機器取り扱い訓練を行いました。

②支援グループ総会についてはコロナウイルスの影響を考慮し、中止としました。

(7) 地域連携事業

①地域ボランティア

令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からご利用者と接する機会があるボランティアの受け入れを中止させていただきました。

②福祉健康フェア

大府市が主催する「大府市福祉・健康フェア」は市内の福祉事業所のPR場として毎年参加していましたが、今年は新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止となりました。

③ウェルネスバレー推進協議会

大府市・東浦町が主催するウェルネスバレー同運営委員会、同ヘルスケア産業振興ワーキンググループに参加しました。

実証事業として株式会社YAMADAの歩行支援機器「e-FOOT」と国立長寿医療研究センターの「認知症ケア支援研究」に協力しました。

(8) 実習生の受け入れ

3年度の受け入れはコロナウイルス感染症拡大を考慮して中止としました。

(9) PR活動

透明性が高く、地域に開かれた施設であるために当施設のサービス内容や日々の取り組みを地域の方々に広く情報発信する手段として年4回ルミナス通信の発行、ホームページの更新に努めました。

①ルミナス通信

発行回数：年 4 回

配布場所：市役所、市保健センター、市内の公民館、市内医療機関等

発行部数：計 2000 部

発行号数	発行日	内容
第 81 号	令和 3 年 4 月 1 日	牛にちなんだ豆知識 ご利用者の作品紹介 クリーンパーテーションを導入
第 82 号	令和 3 年 7 月 1 日	コロナ対策の様子 スタッフ紹介 職員表彰
第 83 号	令和 3 年 10 月 1 日	デイケア紹介 介護ロボット Hug 紹介
第 84 号	令和 4 年 1 月 1 日	新年のあいさつ 行事の思い出（2 階 3 階 4 階） ルミナス体操紹介

②ホームページ

日常的に施設の取り組み状況をホームページで発信しました。令和 3 年度から広報委員会を組織してホームページを管理しました。週 1 回の新着情報の更新とホームページ内の写真を定期的に更新し最新の情報を発信してきました。ホームページの年間閲覧回数令和 2 年度 6,206 回に対して令和 3 年度 8,364 回と 2,158 回伸びました。職員採用にも役立っておりホームページの求人サイトから数件応募いただきました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
閲覧回数	683	782	730	597	749	820	789	663	613	689	577	672	8,364

6. 認知症高齢者グループホーム・ルミナス大府

（1）入居者状況

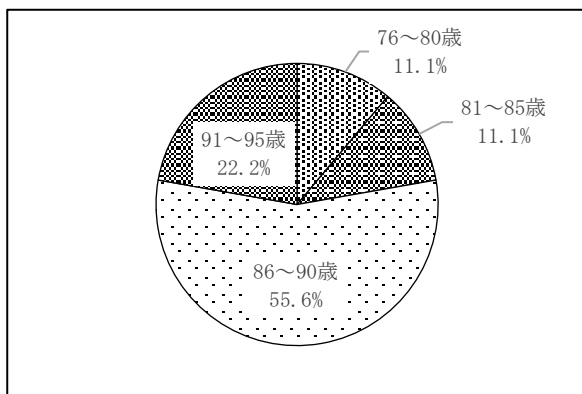
①各月末入居者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性(人)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
女性(人)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
合計(人)	9	9	9	9	9	8	9	9	9	9	9	9	9
入所率(%)	100	100	100	90.3	100	100	100	100	100	100	100	100	99.9

入退所者 7 月 1 名 スムーズに入れ替わりが出来、年間を通して 9 名で安定していました。

②入居者年齢

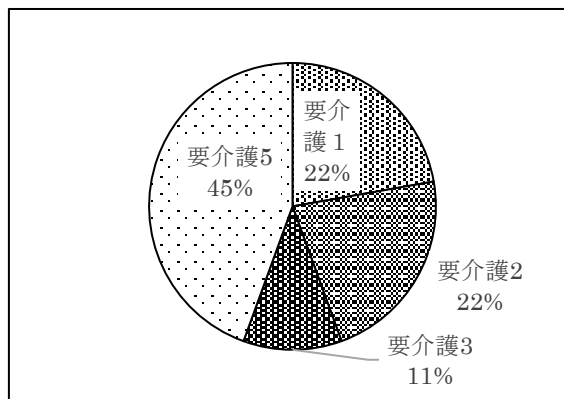
平均年齢 86.7 歳（令和 2 年度 86.0 歳）



平均年齢は 86.7 歳でした。昨年と比較して大きな変化はありませんでした。

③介護度別

平均介護度 3.22（令和 2 年度 3.33）



平均介護度は 3.22 でした。

（2）入居者を尊重した個別ケア

- ① 友達に会いたい、家に帰りたい、買い物へ行きたい等訴えがあり出来るだけ気持ちに添えるよう検討し対応しました。
- ② 帰宅願望の訴えがある方の話を傾聴し、家族へ電話をかけ声を聞いて頂いています。
- ③ 花が見に行きたい、外へ行きたいと言われ一緒に散歩へ出掛けました。

（3）家族との意見交換会

3ヶ月毎の家族との意見交換会はコロナのため開催できず、家族同士の話はできていませんが、面会時に職員とご家族はコミュニケーションをとるようにしました。又は電話やメールのやりとりや、お手紙で様子の報告をしました。

（4）家族同伴日帰りバス旅行

新型コロナウイルス感染症の影響で中止しました。

（5）地域との交流

新型コロナウイルス感染症に配慮し地域の方との交流はできませんでしたが、地域のボランティアの方へお手紙やホームの様子が分る様グループホーム新聞を送り、今後に繋がるようにしています。

（6）近隣施設との連携

電話やメールで情報交換をしました。

（7）スタッフの資質向上

勉強会は毎月、管理者・看護師・リーダー研修修了者が中心となり行いました。

〈勉強会内容〉

月	内 容
4 月	エスケープ
5 月	看取り介護とは
6 月	レクリエーション
7 月	苦痛に関する緩和ケア
8 月	拘束について
9 月	振り返り（事前アンケートの集計）
10 月	防災について
11 月	看取りについて（具体的対応・家族への支援）
12 月	急変時の対応
1 月	徒手搬送放方法と実演・避難訓練
2 月	高齢者の肥満
3 月	研究発表会内容報告（便秘との闘い）
その他	広域主催勉強会 2 名・介護支援専門員取得支援 1 名

（８）入居者の状況についての共通認識

毎月全員参加でのスタッフ会議にて利用者の状況を話し合い、共通認識を図っています。

（９）防災訓練

老健協力の防災訓練は連絡のみ、グループホームでの防災訓練はスタッフ全員が訓練できるよう日にちを考え実施しました。

地震からの火災等状況を変え訓練を行いました。

訓練後は参加者全員で反省会を開きました。

（10）医療連携

どんな状況でも主治医へ報告し、連携をとれるようにしています。

（11）行事

月	活 動 内 容
4 月	花見（ドライブ）
5 月	調理レクリエーション（たこ焼き作り）
6 月	塗り絵大会・お弁当作り
7 月	七夕会
8 月	グループホーム夏祭り
9 月	敬老会・おはぎ作り
10 月	ハロウィンパーティー
11 月	

12 月	グループホームクリスマス会（ケーキ作り） グループホーム餅つき（鏡もち作り）
1 月	新年会
2 月	節分（豆まき・恵方巻き作り） おこしもの作り
3 月	寿司パーティ・パン作り
その他	誕生会（入居者毎に実施）

(12) 運営推進委員会

5 月・7 月・9 月・11 月・1 月・3 月 推進委員メンバーとご家族へ手紙でグループホームの状況を報告しました。

(13) 外部評価実施

12 月特定非営利活動法人あいち福祉アセスメントより調査を受けました。結果はホーム玄関にあり、訪問者何方でも見る事が出来ます。

その他

コロナ禍外出できない入居者の刺激になるように考え、令和 3 年 12 月より移動販売を取り入れました。

（大府市と連携事業としスギ薬局が開始した移動販売サービス）

7. 訪問看護ステーションルミナス大府

(1) 訪問状況

①利用者総数	93 人（2 年度 81 人）
新規利用者数	38 人（2 年度 37 人）
終了利用者数	31 人（2 年度 26 人）

②月別訪問状況

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
訪問件数	350	293	354	355	372	392	386	369	339	333	327	389	4259
利用者数	57	57	57	59	60	61	62	59	61	57	61	62	713
新規利用者数	3	3	3	4	6	2	2	2	2	2	5	4	38
終了利用者数	2	3	2	4	1	2	4	0	5	0	4	4	31

ア. 月平均利用者数 59.4 人（2 年度 51.0 人）

イ. 月平均訪問件数 354.9 件（2 年度 324.8 件）

ウ. 介護保険訪問件数 要介護 3,143 件（73.8%）
予防介護 138 件（3.2%）

エ. 医療保険訪問件数 978 件（23.0%）

同行訪問その他の訪問が 121 件あり、延べ訪問件数は 4,380 件でした。

常勤職員 3 人と非常勤職員 2 人の計 5 人常勤換算 4.1 人で稼働し、事業計画を大きく上回る実績となりました。

③24 時間連絡体制の状況（年間総数）

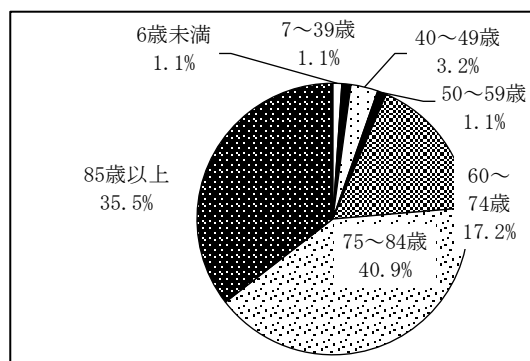
- ア. 緊急時対応訪問 105 件（2 年度 158 件）
- イ. 利用者との電話相談
- ウ. 営業時間外 152 件（2 年度 112 件）
- エ. 営業時間内 530 件（2 年度 432 件）
- オ. 営業時間外その他機関との連絡調整 60 件（2 年度 68 件）
- カ. 介護保険緊急時加算契約者 59 人 88.1%（2 年度 50 人 84.7%）

④看護体制強化加算について

4 月より看護体制強化加算Ⅰ（550 単位）の加算をつけることができ、3 月よりⅡ（250 単位）となりました。

（2）利用者状況

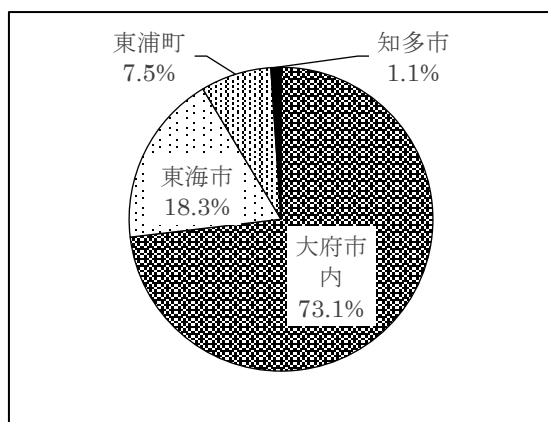
①年齢別・男女別



6 歳児 1 人 20 歳代 1 人に対応しました。

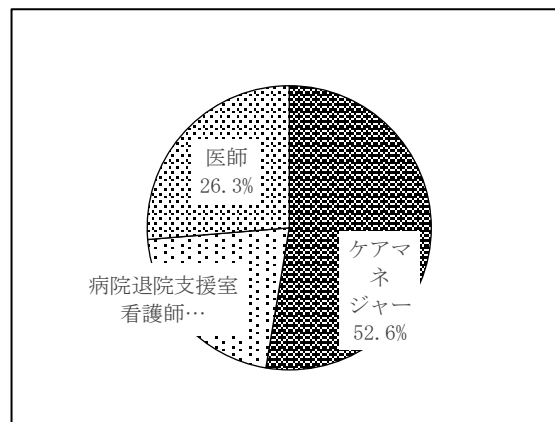
平均年齢 79.56 ± 14.14 歳
 （2 年度平均 79.52 ± 14.84 歳）
 介護保険利用者 83.91 ± 8.43 歳
 医療保険利用者 68.35 ± 19.13 歳
 男女比 男性 55.91%
 女性 44.10%
 75 歳以上の後期高齢者 77.4%
 （2 年度後期高齢者 77.8%）

②住所地別利用割合



大府市の割合が約 7 割を占めています。

③新規紹介経路別割合（総数 37 人）



ケアマネジャーからの紹介が約半数を占めています。

④認知症高齢者と高齢者との日常生活自立度による分類（対象 92 人）

	なし	I	II	III	IV	計
J	14	8	4	0	0	26
A	13	6	2	2	0	23
B	16	6	7	5	0	34
C	2	1	1	2	3	9
計	45	21	14	9	3	92

日常生活自立度「寝たきり B・C」 46.7%（2 年度 42.5%）

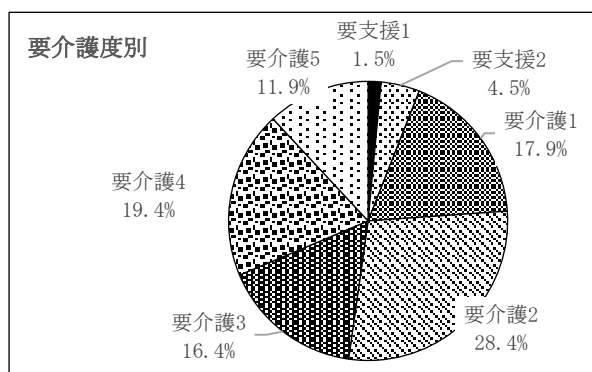
認知症自立度「Ⅲ・Ⅳ 中等～重度」13.0%（2 年度 17.5%）

「認知症なし」 48.9%（2 年度 47.5%）

日常生活自立度「自立」「認知症なし」15.2%（2 年度 17.5%）

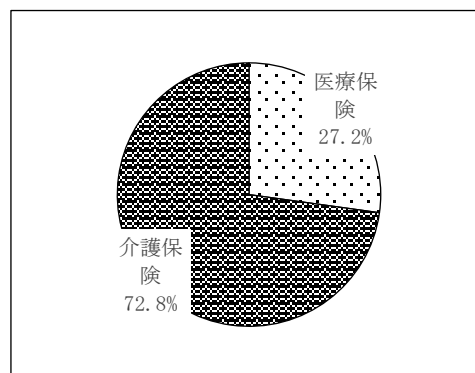
⑤介護度別利用割合

平均介護度 2.8（2 年度 2.4）



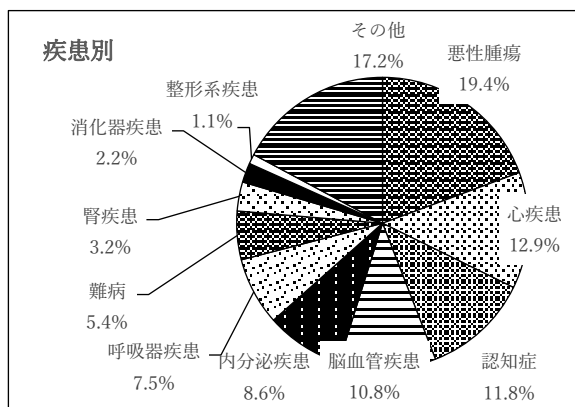
介護保険利用者（63 人 予防除く）平均要介護度 2.8（2 年度 2.4）要介護 5 よりも 1～4 の利用者が多い特性に変化はありませんでした。予防介護保険利用者が減少しました。

⑥適用保険別利用割合



介護保険利用者が約 7 割を占めています。

⑦疾患別利用割合



悪性腫瘍の利用者が多い傾向は例年と同じです。その他は老衰、フレイル等です。

⑧医療処置内容

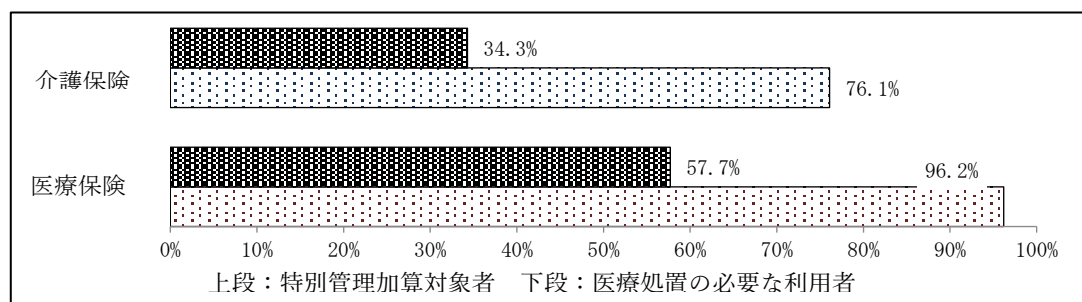
	医療保険	介護保険	合計
服薬管理等の実施	5	17	22
褥瘡	3	15	18
褥創以外の創傷部の処置	1	17	18
点滴・注射の実施・管理 (インシュリン含)	6	11	17
ターミナルケア	11	5	16
膀胱留置カテーテルの交換・管理	5	11	16
在宅酸素療法の指導・援助	8	6	14
浣腸・摘便	1	12	13
疼痛管理	10	1	11
人工肛門・人工膀胱の管理	3	3	6
吸引	3	2	5
エンゼルケア	1	3	4
がん化学療法の管理	2	2	4
透析管理	4	0	4
採血等の検体採取 (BS 含む)	0	3	3
I V H	2	1	3
人工呼吸器管理 (BIPPV)	0	3	2
胃瘻による経管栄養法の実施、管理	1	1	2
自己導尿の指導、管理	0	1	1
気管内吸引	1	0	1
気管カニューレの交換、管理	1	0	1
合 計	68	113	181

介護保険対象者も特別管理加算の対象以外の医療処置を多く必要とされています。

今年度は腹膜透析（導入時自宅透析）の利用者3名に対応しました。

また、医療処置は全体的に加算のつく利用者が増加しました。

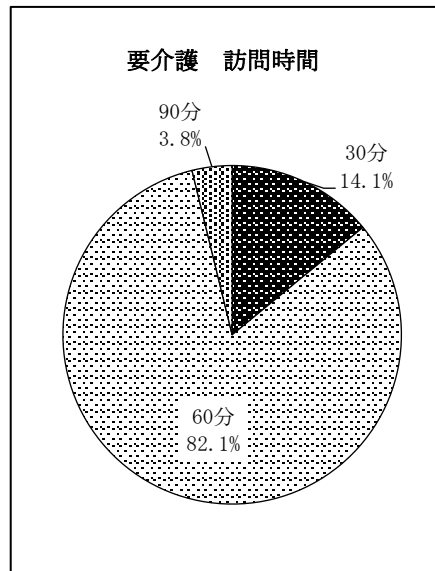
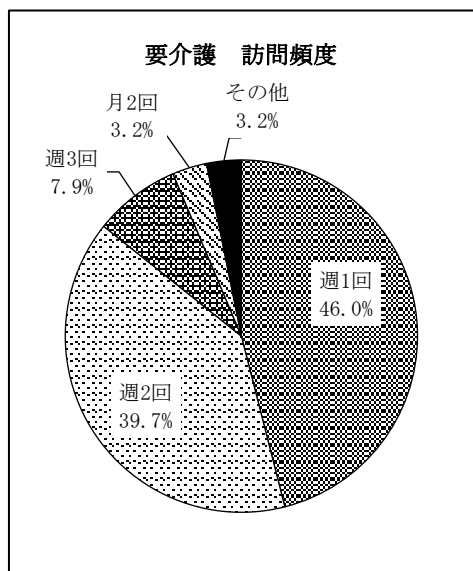
⑨適用保険別医療処置の必要な利用者・特別管理加算対象者の割合



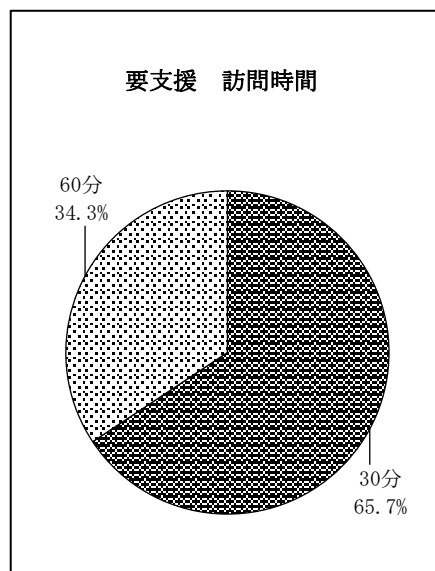
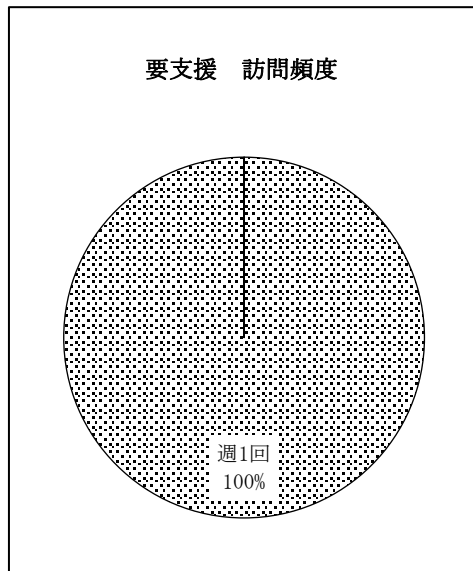
⑩介護保険及び医療保険利用者別の訪問頻度と訪問時間の割合

ア. 利用者一人あたりの月平均利用回数	6.01 回 (2 年度 5.76 回)
イ. 介護保険 (要介護) 利用者	5.91 回 (2 年度 5.75 回)
ウ. 介護保険 (要支援) 利用者	3.81 回 (2 年度 4.26 回)
エ. 医療保険利用者	6.80 回 (2 年度 7.26 回)

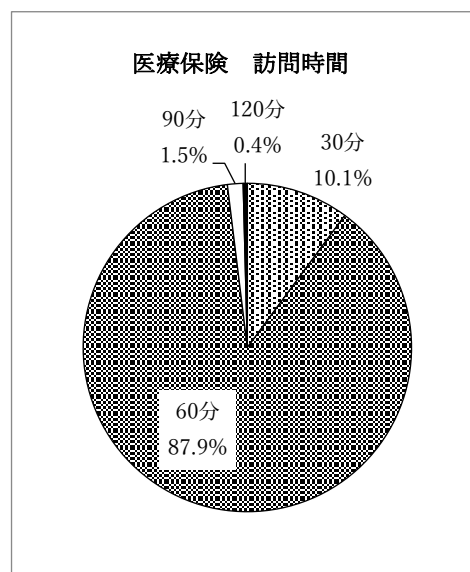
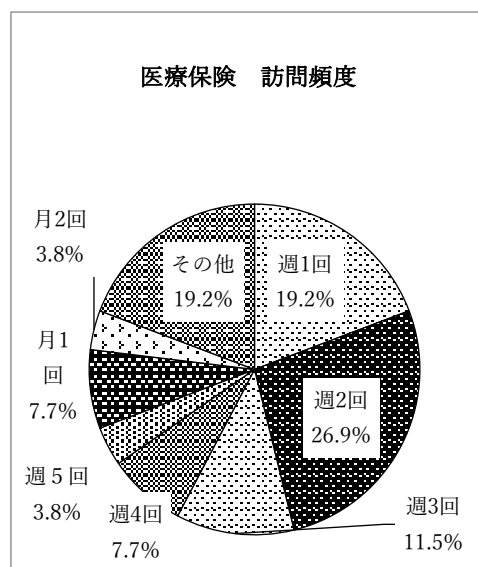
要介護 63 人



要支援 4 人



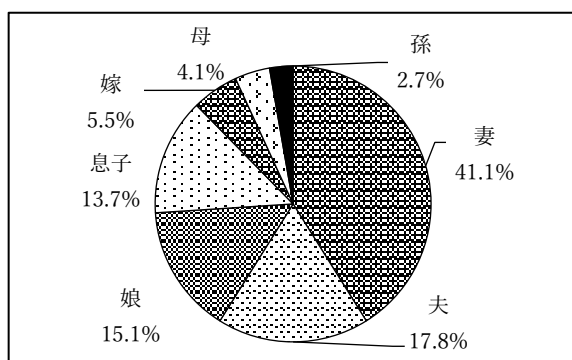
医療保険 26 人



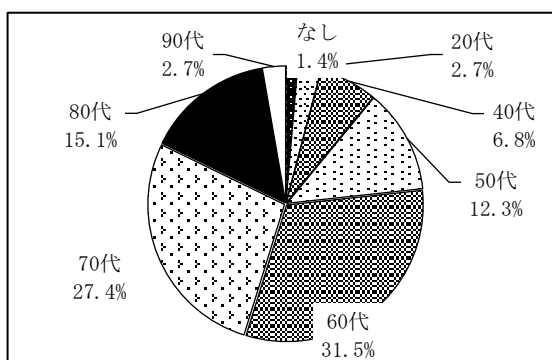
医療保険では悪性腫瘍のターミナル期や褥瘡処置などに頻回な訪問対応するため、一人あたりの月平均利用回数が介護保険に比べ多くなっています。
 予防介護保険では、週1回30分対応の利用状況が多くありました。

⑪介護者の続柄、年齢の割合

対象 73 人



対象 73 人



独居 17 人 日中のみ独居 2 人

配偶者介護が50%、子どもの介護が35%、嫁9.5%でした。老々介護も相変わらず高い状況です。独居への訪問が17人と増加しています。(2年度15人)

⑫月別入退院数 (2年度入院33人 退院38人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (延)
入院	4	1	2	5	5	3	8	7	5	6	8	5	59
退院	4	3	2	3	7	6	5	3	5	6	6	4	54

入退院が多いと病院、医師、ケアマネジャー等との連携（文書や電話での連絡、面談など）も多く必要となり、また、家族との調整も頻回となります。

特に今年度は、入退院が多く調整の必要がありました。

⑬利用終了者の転帰（対象 31 人）

ターミナルケア加算算定数 7 件

死亡		軽快	入院	入所	その他	合計
17	入院死亡 9	6	2	4	2	32
	在宅死亡 8					

死亡のうち、在宅での死亡率は 47.1%でした。訪問看護や在宅医の利用により、在宅での看取りが可能となっています。

（3）他機関との連携

情報の共有化、他機関との業務協働のためケアマネジャー、医師、サービス事業所、病院等との連携を頻回に行ない、月平均 182 件となりました。その他、サービス担当者会議、退院前カンファレンス等年間 48 回の会議に参加しました。

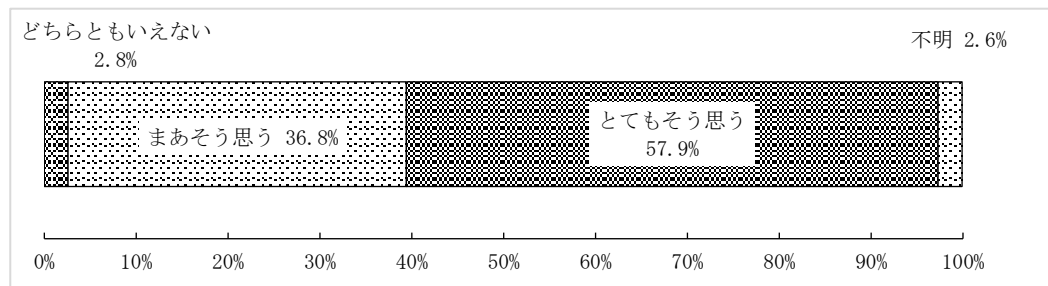
今年度の連携医（訪問看護指示書の交付医師）は、開業医 17 機関（利用者 46 人）、病院 9 機関（利用者 47 人）で、60 人の医師より指示をいただきました。ケアマネジャーは、21 事業所 39 人と連携しました。

大府市の「おぶちゃん」、東海市の「へいしゅうくん」のネットワークツールを積極的に活用しています。

（4）利用者及び家族へのアンケート

今年度は 4～10 月に利用実績のある 62 人を対象に、利用者宅へ郵送し、無記名でアンケートを実施しました。回収率 51.3%

総合評価と設問 19「上記①～⑮までを総合すると、サービスの満足度は高かった」では、高い評価をいただきました。



（5）職員研修状況

知多北部認知症研究会リモート研修	自宅	1 回	1 人
かとう内科クリニック勉強会	刈谷市開催	2 回	4 人
科研製薬 KK リモート研修	ルミナス大府	1 回	3 人
公立西知多病院リモート研修	自宅	2 回	2 人
長寿医療研究センターリモート研修	自宅	2 回	2 人

（6）大府市在宅医療・介護連携推進事業

大府市在宅医療・介護連携推進会委員（任期 令和 4 年 3 月 31 日）として参加しました。

3. 大府センター拠点

1. 認知症介護に関する研究事業

認知症高齢者の生活機能や行動等の特性、生活機能の維持改善を図るための介護技法等に関する研究開発や若年性認知症に対する社会的支援に関する研究、認知症ケアレジストリ研究等を推進してきました。

令和3年度においても老人保健健康増進等事業の研究予算獲得と併せて関係機関の研究補助金、助成金の獲得に努めて研究に取り組むとともに、研究成果を広く介護関係施設等に周知しました。

(1) 補助金・助成金等による研究事業の実施

1) 厚生労働省 老人保健健康増進等補助事業

- ① 若年性認知症支援コーディネーターの地域連携体制構築等に関する調査研究事業
 - ・若年性認知症の人への円滑な支援に向けて、支援コーディネーターとの連携が求められる労働関係機関、地域包括支援センター等との地域連携体制構築を強化するため、若年性認知症自立支援ネットワーク会議や研修の実施方法の検証を行い、有効な実施方法を提案。
 - ・具体的な実施方法をまとめた手引書を作成し、それを活用した労働関係機関や地域包括支援センター等の地域の関係機関との連携強化に向けた研修会を実施。
 - ・行政担当者及び支援コーディネーターに対する実態調査を行い、課題等を把握し関係者に周知するとともに、手引書・報告書を配布。
- ② 認知症介護実践者等養成事業のオンライン化の実装促進及び評価の効果的展開に関する研究事業（3センター協同：東京センター主担当）

2) 文部科学省 科学研究費補助事業

- ① 感情表現の強さが制御された音声刺激による認知症患者の感情認知機能の評価（分担研究）（平成29年度からの継続）
- ② ロジックモデルを用いた高齢者施設のケア文化の指標の開発（分担研究）（令和元年度からの継続）

(2) 運営事業費による研究

- ① 介護サービス事業所における認知症利用者の社会参加活動を促進するリハビリテーションプログラムに関する研究（令和元年度から継続）
- ② ケア現場における課題解決のためのツール作成と評価に関する研究（令和元年度から継続）
- ③ 認知機能評価のための食行動尺度（EBS-cog）短縮版の実証研究（AMEDからの継続研究）
- ④ 情報共有システムの活用による若年性認知症支援コーディネーターの活動状況把握と課題分析に関する研究
- ⑤ 認知症ケアレジストリ研究（3センター協同）（平成28年度から継続）

(3) 令和2年度研究成果の報告

以下のとおり、関係者に対して研究成果の報告を行いました。

1) 第19回認知症ケアセミナーの開催

令和2年度に実施した研究事業の6課題について、研究成果を報告しました。

- ・新型コロナ感染対策のため集合形式からオンデマンド配信に変更して実施。
- ・DC ネットで配信 配信期間：令和3年10月1日(金)～12月24日(金)
- ・視聴申込者数 871名

2) 認知症介護研究・研修3センター合同研究成果報告会への参加(仙台センター担当)

- ・3センターが令和2年度に実施した研究課題について抄録として取りまとめ、新型コロナ感染対策のため集合形式による報告会を止め、オンデマンド配信に変更して実施。
- ・DC ネットで配信 配信期間：令和3年10月18日(月)～12月30日(木)
- ・視聴申込者数 1,614名

2. 認知症介護等に関する研修事業

(1) 認知症介護指導者養成研修(厚生労働省の指定研修)

認知症介護基礎研修又は認知症介護実践研修の企画・立案に参画し、講義、演習、実習を行うことができる能力を身に付けるとともに、介護保険施設、事業所等における介護の質の改善について指導し、自治体等における認知症施策を推進することができる者を養成することができる者を養成することを目的として平成13年度から実施しており、令和3年度においては、新型コロナ感染対策により年3回を2回に減らし新カリキュラムにより計画しましたが、第1回はコロナ蔓延により中止し、第2回のみ実施しました。

- ・新カリキュラムでは、受講生の負担軽減のため研修期間を短縮するとともに、感染対策も踏まえ一部講義等をオンライン化し実施 ※集合とオンラインのハイブリット

① 第1回 令和3年9月27日(月)～令和3年11月26日(金) ※中止

② 第2回 令和3年12月13日(月)～令和4年2月18日(金)

- ・受講者数 21名

(2) 認知症介護指導者フォローアップ研修(厚生労働省の指定研修)

日々進歩している最新の認知症介護技術や知識を一定期間ごとに認知症介護指導者に伝達し、第一線の介護従事者が最新の認知症介護技術を的確に修得できる体制を整えることを目的として、認知症介護指導者フォローアップ研修を実施しました。

※新型コロナ感染対策を踏まえオンラインにより実施

① 第1回 令和3年7月29日(木)～31日(土)、8月5日(木)・6日(金)

- ・受講者数 7名

② 第2回 令和4年2月21日(月)～23日(水)、28(月)・3月1日(火)

- ・受講者数 9名

(3) パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング(DCM)法研修

平成 15 年度から 17 年度まで「老人保健健康増進等事業」として、英国ブラッドフォード大学で開発されたケアの質を観察・評価する「パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング法研修」の有用性と普及の研究を実施し、その研究成果をもとに、日本での普及活動の拠点として、毎年「パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング法研修」を実施しており、今年度も以下のとおり実施しました

① 基礎オンラインコース

・第 2 回 令和 3 年 10 月 22 日（金）・23 日（土）、29（金）・30 日（土）

・修了者数 18 名

・第 4 回 令和 4 年 3 月 4 日（金）・5 日（土）、11（金）・12 日（土）

・修了者数 16 名

※新型コロナ感染対策のためオンラインコースを新設し開催

(1 回定員を減 36 名→18 名、日数・日程変更)

※第 1 回・第 3 回は、大府センターの共催で特定非営利活動法人シルバー総合研究所が担当

② 上級コース

・研修日程（※集合）

令和 3 年 11 月 11 日（木）～11 月 13 日（土） ※中止

※新型コロナ感染対策のため中止する一方でプログラムのオンライン化の検討を進め、令和 4 年度から運用することとしている。

(4) その他研修事業

1) スーパービジョン実践研修

認知症ケア現場の人材育成技法であるスーパービジョンについて、ロールプレイ等の演習を通して実践的に学ぶ研修会を開催しました。なお、全体は 5 回コースを予定していましたが新型コロナ感染対策のため中止し、1 日コースの公開講座のみオンラインで開催しました。

① 1 日コース ※公開講座

・日程 令和 3 年 8 月 31 日（火） 受講者数 70 名

※オンラインで開催

② 5 日コース

※新型コロナ感染対策、講師の都合により中止

2) 災害時支援力向上研修

福祉避難所になりうる介護保険事業所を対象とし、災害時における災害弱者（認知症高齢者や家族等）への支援力を高めることを目的として実施する計画でしたが、講師(担当者)の異動のため中止となりました。

3) 研究活動継続支援プログラム

本プログラムは、認知症介護指導者を対象に、ケア現場における課題解決に向け

た研究活動を支援するもので、隔月の全体研究会と個別指導を組みあわせ、認知症ケア学会での発表をゴールとして計画しましたが、新型コロナ感染対策のため中止としました。

3. 認知症介護に関する啓発活動、情報発信、連携活動

(1) 啓発活動及び情報発信

1) 講演会・シンポジウムの開催

① 認知症フォーラム

介護関係者をはじめ広く一般の方々にも「認知症」について知っていただくために、令和4年3月18日(金)に認知症フォーラム(第16回)を開催しました。

- ・テーマ「若年性認知症の人の社会参加」
- ・新型コロナ感染対策のためオンライン(Zoom ウェビナー)で実施。
- ・視聴者数 約 1,300 名

② 認知症ケアセミナー

一般に開放した研究報告として認知症ケアセミナー(第19回)を実施。

- ・新型コロナ感染症対策のため集合からオンデマンドに変更し、令和3年10月1日(金)～12月24日(金)の間、配信しました。
- ・視聴者数 871 名

2) DCネット等による情報発信

認知症介護情報ネットワーク(DCネット)を通じて、あるいは認知症介護指導者大府ネットワーク、日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワークとの連携により、認知症介護に関する情報発信を推進しました。

また、3センターで映像教材を開発し、認知症ケアの普及・啓発に努めました。

(2) 認知症介護指導者大府ネットワーク等との連携活動

- ・大府センターの認知症介護指導者養成研修修了生の自主的組織である大府ネットワーク(平成19年設立)においては、現在5ブロック(北陸・甲信・東海・近畿東・近畿西)で研究会や研修会等が開催され、認知症介護指導者間の連携が図られています。
- ・また、認知症ケアマッピング(DCM)法研修修了生(ユーザー)の自主的組織である日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワーク(平成26年設立)においても、全国規模でユーザー同士の研究会、研修会等、連携が図られています。
- ・当センターの担当地域(15府県及び7指定都市)で活躍する認知症介護指導者の数は令和3年度末で900名、また、全国で活躍するDCMの基礎ユーザー及び上級ユーザーは令和3年度末で1,849名を数えており、大府ネットワーク並びにDCMネットワークの活動との連携は、当センターの運営上も重要であり、研修会活動等への参加・支援等により更なる連携を図っています。

4. 若年性認知症に対する支援事業

(1) 全国若年性認知症支援センターの運営（国事業）

1) 若年性認知症コールセンターの運営

若年性認知症の人やその家族等に対する電話・メール相談支援及び相談内容に応じた適切な関係機関への連絡調整を実施。

・令和3年度実績 1,109件（3.8件／日）（対前年度 ▲96件）

2) 若年性認知症支援コーディネーター等に対する支援

①相談支援

各都道府県・指定都市の施策担当者と若年性認知症支援コーディネーター（以下「支援コーディネーター」）、及び相談窓口の職員等に対して、相談支援を実施。

・令和3年度実績 346件（対前年度 +152件）

②支援コーディネーター研修

若年性認知症の人やその家族、企業等を支援するための施策の知識や相談支援のノウハウを習得するため、各都道府県・指定都市の施策担当者と支援コーディネーターを対象に、初任者研修とフォローアップ研修を実施。

〔初任者研修〕

・研修日程 令和3年6月23日（水）～令和3年6月24日（木）

・受講者数 62名（行政：24名、コーディネーター：38名）

※オンラインで開催

〔フォローアップ研修〕

・研修日程 令和3年12月2日（木）～3日（金）

・受講者数 85名（行政：32名、コーディネーター：53名）

※オンラインで開催

③情報共有システムの運用による支援

支援コーディネーターの業務の効率化・負担軽減、活動状況の可視化、支援事例を蓄積し活用、その他各種情報の共有を図ることを目的とした情報共有システムを引き続き運用しました。

・相談記録システム（電子カルテ方式の共通シートを使用しデータベース入力）

・支援事例共有システム（Webサーバーを使用し、支援事例を蓄積・共有）

・掲示板機能（研修会・資料等の情報について掲示板機能を活用して共有）

※年度末現在の利用者数 175名（行政：55名、コーディネーター：120名）

※説明会実施 7月26日（月）、8月3日（火） 59名参加

④ネットワークづくり

上記の掲示板の活用、広報誌の発行により、支援コーディネーターの活動に資する情報を提供するとともに、都道府県・指定都市や支援コーディネーターとの連携を推進し、併せて、支援コーディネーター間の連携が図られるよう支援。

・広報誌「全国若年性認知症支援センターだより」：4回発行

3) 若年性認知症の普及・啓発等の推進

一般はもとより、若年性認知症の人やその家族に関わる行政担当者並びに事業所関係者に対して、機会あるごとに説明や資料配布を行い、若年性認知症の人一人ひとりが、その状態に応じて適切な支援を受けられるよう若年性認知症施策の推進を図りました。

- ・大府センターで作成した「若年性認知症ハンドブック」「若年性認知症支援ガイドブック」等、若年性認知症支援に関する資料を全国の行政機関、認知症疾患医療センター、支援機関等へ配布

(2) 愛知県若年性認知症総合支援センターの運営（愛知県事業）

愛知県の委託事業として、愛知県内に居住または就業する若年性認知症の人やその家族等の支援とともに、若年性認知症自立支援ネットワーク事業を推進。

1) 相談支援

若年性認知症の人やその家族等に対する電話・来所・訪問での相談支援及び相談内容に応じた適切な関係機関への連絡調整

- ・令和3年度実績 943件（対前年同期 +171件）

2) 自立支援ネットワーク事業

①会議の開催

医療、介護、福祉、雇用等の関係者による若年性認知症自立支援ネットワーク会議を開催し、連携構築を推進しました。

- ・年2回オンラインで開催
- ・令和3年7月8日(木)、令和4年2月25日(金)
- ・新たに、早期相談支援に係る連携体制構築に向けたワーキングを設置
- ・令和3年8月3日(火)にオンラインで開催

②研修の開催

支援担当者等関係者に対する若年性認知症自立支援ネットワーク研修を開催し、若年性認知症対応力の向上を図りました。

※年2回オンラインで開催

[支援担当者向け研修]

- ・令和3年8月20日(金)
- ・対象：市町村の認知症施策担当者・地域包括支援センター職員等
- ・午前：初任者研修 131名参加、午後：フォローアップ研修 96名参加

[障害者福祉施設向け研修]

- ・令和4年1月14日(金)
- ・対象：障害者福祉施設等の職員

※研究（老人保健健康増進等補助事業）とタイアップしプログラムを計画

- ・受講者数 105名 ※その他に研究事業の聴講者数 103名

③実態把握

若年性認知症の人のニーズ等を把握し、相談支援に活かすとともに、専門職の

研修や県民への啓発に反映させるため、令和4年3月27日(日)に、カフェくちなしにて当事者と愛知県希望大使との座談会に参加し、若年性認知症の人のニーズ等を把握しました。

3) あいちオレンジタウン構想に係る事業

愛知県が推進する「あいちオレンジタウン構想」のアクションプランの一つとして、若年性認知症の人への早期相談支援体制づくりを推進しました。

※これまでに構築した国立長寿医療研究センターと支援コーディネーターとの連携実績をベースとし、県内の他の認知症疾患医療センターへも広げていくため、愛知県若年性認知症自立支援ネットワーク会議及びワーキングと連携し検討を進めました。

4) 啓発事業

愛知県総合支援センター啓発リーフレットや若年性認知症のご本人・ご家族・支援者・企業向けのリーフレット等を県内の疾患医療センター・関連医療機関・障害者施設等へ配布しました。

5. 愛知県の身体拘束廃止推進事業

(1) 権利擁護推進員養成研修（愛知県からの委託事業）

愛知県からの委託を受けて、介護施設における身体拘束廃止の取り組みをより効果的に推進させるため、施設内で指導的立場にある職員を対象に講義・演習・自施設実習を通じて、高齢者虐待防止法の趣旨の理解及び利用者の権利擁護の視点に立った介護に関する実践的手法を習得させ、介護現場での権利擁護のための取り組みを指導する人材を養成する研修をオンラインで開催しました。

- ・ 日程 令和3年10月20日(水)、26日(火)・27日(水)、11月30日(火)
- ・ 受講者数 60名（施設長等30名、介護主任等30名）

4. サンサン大府拠点

Ⅰ．施 設 の 状 況

1. 指定障害福祉サービス開始日：平成20年4月1日

平成18年4月1日施行の障害者自立支援法（現在は障害者総合支援法に改正）に基づく新体系移行に伴い、就労移行支援（一般型）事業、就労継続支援（B型）事業のサービスを開始しています。

平成28年3月31日をもって就労移行支援（一般型）事業を廃止しました。

2. 指定障害福祉サービス(事業)名及び利用定員

- ・就労継続支援（B型）事業〔利用定員：39人〕

一般就労が困難な方等へ就労の機会を提供するとともに、生産活動を通じて社会的自立に向けた、知識や能力の向上に必要な福祉サービスを提供します。

3. 利用対象者（18歳以上）

- ・身体障がい者(肢体不自由、視覚、聴覚・言語、内部障がい)
- ・知的障がい者
- ・精神障がい者（発達障がい者を含む）
- ・難病等対象者

4. サービス提供職員の配置〔1日当たりの平均実利用者数 38.5名〕

※ 常勤換算基準数は、実利用者：職業指導員&生活支援員 = 7.5 : 1

事業所名 職 種	職 員 数 (兼務は主とし た職種を優先に 表記)	【 常 勤 換 算 数 】					
		専 従		兼 務		計	基準数
		職員	非常勤	職員	非常勤		
施 設 長	1	1.0（職業指導員兼務）					
管 理 者							
サービス管理責任者	1	1.0	—		—	1.0	1.0
職業指導員	3	1.0	1.1	0.5		2.6	5.2
生活支援員	6	2.0	2.3			4.3	
目標工賃達成指導員	1		1.0	—	—	1.0	1.0
事 務 員	1	—	—	—	—	—	—
送迎運転手	2	—	—	—	—	—	—

5. 就労活動種目

項 目	品 目・製 品	摘 要	売 上	対前年度比
印 刷	一般印刷、封筒印刷、名刺・ハガキ・カード印刷、封入～発送作業 他	官公庁、民間企業、各種団体、個人他	9,726 (千円)	91%
下請作業	自動車部品等のシール貼り及び組み付け、ゴムはめ、紙折り、花壇整備 他	大府市内外各事業所、(株)げんきの郷他	3,802 (千円)	145%
自主製品	洗顔セット、ダンボールコンポスト、ペットボトルオープナー 他	当施設、(株)げんきの郷売店 他で販売	474 (千円)	697%
委託販売	・無添加石けん（白雪の詩） ・化粧石けん（さくやうさぎ）		322 (千円)	87%
その他	自転車整理（施設外支援）他	大府市身障者協会（共和駅）他	865 (千円)	83%
計			15,189 (千円)	103%

- ・平成25年4月1日「障害者優先調達推進法」が施行されています。
行政機関等（学校関係含む）からの契約件数は56件、契約金額は約232万円。対前年度比で件数は15件の減（21%減）、金額は約147万円の減（39%減）でした。
（活動種目全体の約1.5%の売上です。）
- ・大府市敬老会、大府市福祉・健康フェア等、大府市主催の行事が新型コロナウイルスの影響で中止となり、売り上げは横ばいでした。
- ・自主製品であるペットボトルオープナーが新聞等に取り上げられた影響で、大幅に増えました。
- ・大府市環境課、ナチュラルリターンクラブ（活動団体）と連携し、ダンボールコンポストの販売を開始しました。

6. 年間行事

月	行 事 等
4	お花見中止（施設内にて昼食のみ）
5	—
6	—
7	—
8	ルミナス夏祭り中止（バザー出店中止）
9	大府市福祉・健康フェア中止（バザー出店中止）、障害者就職面接会中止
10	イオン東浦イエローレシートキャンペーン中止、防災訓練（2回）
11	名フィル福祉コンサート中止
12	年末食事会（施設内と研究・研修センターにて昼食、レクリエーション）
1	お抹茶の会中止
2	障害者就職面接会中止
3	—

- ・新型コロナウイルスの影響で、ほとんどの年間行事が中止になりました。

7. 各種会議（毎月実施）

- ・工賃評価委員会… 利用者工賃の評価、見直し 他。
- ・指導委員会… 利用者の援助、支援内容の検討 他。
- ・職員会議… 施設運営と経営改善の協議 他。

Ⅱ. 利用者の状況

1. 定員及び現員〔登録者〕

定 員	現 員〔登録者〕
39	48

2-1. 月別現員数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
初日の現員数	48	48	49	49	49	49	50	50	49	48	48	48
入所(通所)数		1				1						1
退 所 数								1	1			1
月末の現員数	48	49	49	49	49	50	50	49	48	48	48	48

- ・退所者は3名（ご逝去1、一般就労1、高齢を理由に市から支給決定が終了1）

2-2. 相談・見学、実習者の延べ人数

※ 相談・実習の（ ）の数値は利用に結びついた方

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談・見学	3	0	0	1	0	1	0	0	1	2	1	1	10
実習	2(1)	0	0	1(1)	0	1	0	0	0	2	1(1)	0	7(3)

- ・5月の新規利用者は4月の実習、9月の新規利用者は7月の実習、3月の新規利用者は2月の実習から結び付いた方。

3. 障害者手帳の内訳

(1) - 1 身体障害者手帳

障 害 等 級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
現員〔登録者〕	13 (1)	7 (3)	5 (1)	1	0	1	27 (5)

- ・（ ）の数値は知的障がいがある方

(1) - 2 上記の内訳

障 害 別	肢体	視覚	聴覚	内部	計
現員〔登録者〕	22	3	0	2	27

(2) 療育手帳

障 害 等 級	A	B	C	計
現員〔登録者〕	6 (1)	1 1 (1)	7 (3)	2 4 (5)

・ () の数値は身体障がいがある方

(3) 精神障害者保健福祉手帳

障 害 等 級	1 級	2 級	3 級	計
現員〔登録者〕	0	1	1	2

(4) 難 病

脊髄小脳変性症、網膜色素変性症、球脊髄性筋萎縮症、筋緊張性ジストロフィー（2名）、パーキンソン病の計6名。

（身体障がい5名、身体障がいと知的障がいの重複1名）

4. 性別・年齢

区 分 性別		年 代 別							計（比率）
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70～	
現 員 〔登録者〕	男	3	5	7	7	7	5	1	35 (73%)
	女	1	4	2	1	2	1	2	13 (27%)
	計	4	9	9	8	9	6	3	48 (100%)

5. 市 町 別

市 町	人 数	市 町	人 数
大府市	2 3	東浦町	1 1
知多市	7	阿久比町	2
東海市	4		
知立市	1		
常滑市	0	計	4 8

6. 通所方法

通 所 方 法	人 数
送迎車利用(市外)	10
〃 (大府駅西)	5
〃 (共和)	3
〃 (長草)	0
〃 (市内その他)	5
自家用車	1
自転車・徒歩・循環バス	13
家族送迎	11
福祉有償運送(他施設)	0
計	48

7. 利用の経路

経 路	人 数
仁至会授産所から継続	5
特別支援学校、専門学校	14
障がい者相談支援センター	14
各市町	6
名古屋市リハビリテーションセンター	1
障害者生活支援センター(らいふ)	3
障害者就業・生活支援センター(ワーク)	0
他事業所から引き継ぎ	1
本人・家族、その他(東和荘、ルナス、知人紹介他)	4
計	48

8. 一般就労

	事 務 系	軽 作 業	その他(在宅含む)	計
平成29年度	0	0	0	0
30	0	0	0	0
令和元年度	0	0	0	0
2	0	2	1	3
3	0	1	0	1
計	0	3	1	4

・平成20年～27年は就労移行支援事業も実施しました(多機能型)。

9. 利用者工賃向上計画(平均月額)

	30年度 実 績	令和元年度		2年度		3年度	
		目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績
愛知県	16,650	—	16,888	—	16,822	—	集計中
当施設	15,107	15,964	14,143	15,981	15,376	15,378	15,214
(参考: 全国)	16,118	—	16,369	—	15,776	—	集計中

・実績は、①1ヶ月の途中で入退所をした利用者、②1ヶ月の利用が極端に少ない利用者は除いています。

【参考】 実工賃(利用者が1ヶ月に1日でも利用した時の工賃)

	年 度 別 平 均						
	H27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	2年度	3年度
全体の月額(円)	518,686	529,625	539,557	624,408	632,613	676,072	685,373
対象者(人)	34.2	34.8	35.2	41.3	48.3	47.2	48.0
月額(1人当たり)	15,181	15,205	15,343	15,107	13,111	14,334	14,279

・最高月額: 68,900円、最低月額: 900円(特別手当を含む)

10. 利 用 率

※ 定員39名に対する1日当たりの利用率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
令和元年度	92.6	89.2	91.3	93.8	89.0	91.5	97.9	100.8	98.2	94.1	91.0	92.1	93.5%
2年度	96.2	99.7	97.9	97.9	94.1	93.1	91.5	93.8	94.6	91.8	96.2	98.5	95.4%
3年度	95.9	101.0	100.3	97.9	93.6	98.3	103.1	103.1	96.2	96.2	98.5	99.2	98.8%

- ・ 在宅支援、送迎の配慮等により、新型コロナウイルスの影響をあまり受けずに、利用率を確保することができました。

Ⅲ. そ の 他

1. 体験学習等の受け入れ

- ・ もちのき特別支援学校（高等部） 就労体験 （10月 延べ14名）
- ・ 〃 （中学部） 進路説明会 （11月 延べ13名）
- ・ 〃 （高等部） 就労体験 （12月 延べ14名）
- ・ 〃 （中学部） 就労体験 （12月 延べ12名）
- ・ 〃 （高等部） 就労体験 （1月 延べ14名）

2. 施設外作業、施設外支援

・ 施設外作業【継続】

- ① 株式会社げんきの郷にて、花壇の草取り・水やり等の作業
（平成24年6月1日から取り組み開始。令和3年度は128日間実施）
- ② げんきの郷に出荷している個人事業者の鉢植えの水やり等の作業
（平成30年2月8日から取り組み開始。令和3年度は51日間実施）
- ③ 認知症介護研究・研修大府センターの花壇の草取り・水やり等の作業
（平成30年6月1日から取り組み開始。令和3年度は33日間実施）
- ④ 認知症介護研究・研修大府センターの居室清掃・ベッドメイク
（令和元年7月10日から取り組み開始。令和3年度は10日間実施）
令和3年度で作業終了（撤退）
- ⑤ ルミナス大府（老健）の清掃・衣類等取り次ぎ作業・ベッドメイク
（令和2年2月1日から取り組み開始。令和3年度は清掃25日間、
衣類等取り次ぎ6日間、ベッドメイク71日間実施）

・ 施設外支援【継続】

共和駅駐輪場の自転車整理

（平成20年9月1日から取り組み開始。令和3年度は96日間実施）

3. 新型コロナウイルス関連

- ・ 国及び愛知県の補助を受けて、職員を対象に7月から月2回の割合でPCR検査を実施しました。全員がすべての検査において陰性と判定されています。

4. 就労移行支援体制加算

- ・令和2年度に一般企業へ就職した利用者が3名いました。その結果として令和3年度（翌年度）に就労移行支援体制加算3名分（1日28単位×3名＝84単位）を取得することができました。